

新交響楽団第100回演奏会

新響を始めて27年、そのあいだ新響は、ただの一度も私の心から離れていこうとはしなかった。彼等は演奏するよろこびを生きがいに、練習を積み重ね、積み重ね、一つ一つの演奏会に精魂を使い果しつつ、それはついに100回を迎えた。

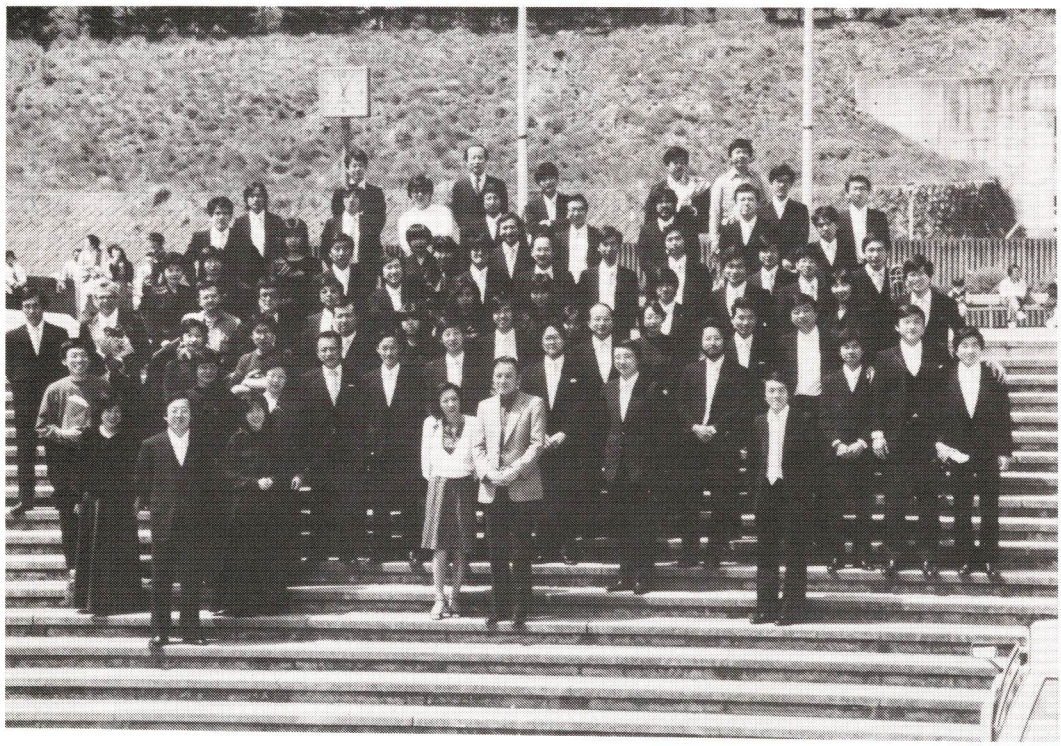
音楽はみんなのもの——アマチュアこそ音楽の本道であることへの確信は、27年前も今も少しも変りはない。

新響はこれからも、ずっと生き続けるであろう。この世に、音楽のよろこびある限り——。

芥川也寸志

Jun. 1983

表紙：ベートーヴェン時代の芥川也寸志／安野光雅　1972



創立の頃——創立から七年目まで——

労音アンサンブルの誕生——1955年

2月1日　労音アンサンブル発起人会。東京労音機関誌「ひびき」（1955年1月）での、当時の労音委員、小林健氏の呼びかけに応じ、46名が集まる。
2月15日　アメリカ文化センターで初練習、小林健氏指揮。
4月8日　高円寺会館での演奏会に出演、以来、労音の地域サークル、職場の文化祭などに数多く出演。
11月9日、12月22日　芥川也寸志氏を指導に迎える。



新交響楽団発足——1956年

1月8日　新年会にて、団名称を「新交響楽団」に改らため、芥川氏が継続して指導に当たることを決定。
3月1日　新交響楽団　初練習。
8月25日　第1回総会。規約制定、正式名称「東京勤労者音楽協議会（東京労音）新交響楽団」



第1回定期演奏会

1957年11月21日　日本青年館

指揮：芥川也寸志
合唱：東京労音会員による合唱団員

J．シュトラウス／ラデツキー行進曲
芸術家の生涯
グリーク／オーゼの死
鈴木匡編世界民謡集
ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」

音楽の鑑賞団体である労音の会員の中から自分達の手で演奏をしたいという呼びかけの許に集まったのが、新響の前身である「労音アンサンブル」です。その2年後、指揮者に芥川也寸志氏を迎え「東京労音新交響楽団」が発足し、1957年に日本青年館で記念すべき第一回演奏会が行なわれました。

高木慶三氏は、1957年から1979年まで在籍し、新響創立メンバーの一人です。

高木　慶三

新響は今日、第100回の演奏会を迎えました。アマチュア・オーケストラとしてはまずまずの年4回弱のペースで創立以来27年を要し、メンバーも第1回の演奏会とは殆んど入れ替わっていることを考えますと、一口に100回と言っても、アマチュア・オーケストラにとっては世代が交代しなければ達成できない数と言えましょう。まずは第100回演奏会を祝福したいと考えます。

新響は1956年に芥川也寸志さんを指揮者に迎えてオーケストラとしての活動を始めました。最初に団名をどうするかでもめましたが、団員の多数決で“新交響楽団(新響)”に決まりました。ご承知のように、この名称は今のＮＨＫ交響楽団の前身の名称として著名です。そのため、団員の中にはこの団名をそのまま言うのをためらい、「アマチュアの」などと断わりをつける者も多かったようです。

後日になりますが、第39回演奏会のタクトを昔の新響の創立者である近衛秀麿先生に振っていただき、更に当のＮ響の機関誌「フィルハーモニー」の1977年9月号に我が新響が日本のオーケストラの一つとして紹介され、また翌10月号誌上で上野晃さんが新響創立20周年記念演奏会“日本の交響作品展”について「演奏水準の高さにおいて恐らく初演当時のそれをかなり上まわる」と評価されたことで、昔の新響関係者の方にも遠慮せずに“新響”の名が使えるようになっなと感じたものです。

さて、芥川さんを迎えて発足した新響ですが、交響楽団とは名ばかりでティンパニーさえなく、練習でティンパニーのソロがあると芥川さんが口三味線ならぬ“口太鼓”で補っておられたような始末です。このような状態から「交響楽団として演奏会を開くのは無理。自分達で合奏を楽しむだけでよい」とする団員も多かったのですが、芥川さんは「自分達だけで満足していては何も生まれない。人に聴いてもらって音楽の楽しさを広めるべきだ」と主張されました。この考えが皆に理解され、定期演奏会に向けて練習を充実することになりました。

そして翌1957年11月21日、日本青年館で第1回定期演奏会を開催しました。この時の曲目は「ラデッキー行進曲」「円舞曲・芸術家の生涯」「オーゼの死」「世界民謡集」「運命」と言う奇妙な組合せでした。「運命」に9ヵ月をかけ、合宿練習までしたのですが、オーケストラのみで1ステージをもたせることができず、オーケストラの負担が少ない合唱曲を加えたのが実情です。

第2回定期演奏会はその1年後にモーツァルトのみのプログラムで開催しました。その翌年から定期演奏会に加え、それに匹敵する演奏会である労音例会への出演が続きます。この間に技術レベルも上り、レパートリーにも次第に大曲が加わって行きました。そして創立から7年目に当る1963年の暮に、本日と同じベートーヴェンの第9交響曲を初めて演奏しました。これが創立期の最後を締めくくる演奏会になったのではないかと思います。

創立期を振り返って見ますと、練習会場難やメンバーの不足など、アマチュア・オーケストラ共通の悩みは尽きなかったのですが、今にして思うと、今日の新響への発展に役立つキイがいくつかあったようです。

一つは常に当時の団員の技術レベルを上回る曲目での演奏会を計画したことです。これは必然的に個人及びパート練習の充実と、練習への出席率の向上を招き、一歩一歩と団のレベルを引き上げました。第二にオーケストラを、或る程度の技術レベルをもった団員から成る第1オーケストラと、誰でも入団できる第2オーケストラに分離したことです。これは個人の技術レベル差が広がり、団全体の技術レベルが伸び悩んできたために行なったのですが、1960年の分離後、第1オーケストラは急速に技術が向上し、今日へと発展します。

最後は最も重要な指揮者です。アマチュア団体にとって指揮者は同時に育成者でもあります。その指揮者に芥川也寸志さんを得たことは新響にとって真に幸運であったと思います。芥川さんの指導により新響はアマチュア音楽家にとって魅力あるオーケストラに育ち、それによって技術力のある団員を集め、各パートの層を厚くして行きました。このことは、メンバーの入れ替わりによるパートの欠けや、レベルの低下と言うアマチュア・オーケストラの主要な悩みを解決することになりました。

そして「アマチュアはプロのまねごとであってはならない」と言う芥川さんの信念は何よりも団員を力づけました。この信念が後に栄えある鳥井音楽賞（現サントリー音楽賞）受賞で開花することになるのですが、創立当初に誰がそのような新響を予想できたでしょうか。

少年期の新響



第2回定期演奏会

〔注〕指揮者は特記以外　芥川也寸志

年月日	演奏会名	回数	おもな曲目	おもな出来事
1958.11.12	第2回定期演奏会	2	ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」(独奏：石浜和子) 交響曲41番「ジュピター」	9．22　国民文化会議演奏会出演
59．5．17	会津労音例会	3	シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	9．　世界学生平和友好祭音楽祭 10　6　モイセーエフ舞踊団との交歓会 12．6～7　日本のうたごえ祭典
60．1．23	上田労音例会	4	ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	新響第2オーケストラ誕生（新響臨時総会＝6．16）
5．15	熊谷労音例会	5	シューベルト＝交響曲第8番「未完成」	
11.28	第3回定期演奏会	6	モーツァルト＝交響曲第40番	12.11・12　日本のうたごえ祭典
61．4．25	第4回定期演奏会	7	ドヴォルザーク＝交響曲第9番「新世界より」	練習場所東京文化会館に移る（7.29）
11．2	第5回定期演奏会	8	チャイコフスキー＝交響曲第5番	
11.19	秩父労音11月例会	9	同上	
11.22	熱海労音11月例会	10	同上	12.9・10　日本のうたごえ祭典
62．4．24・26・29・30	東京労音4月例会	11	モーツァルト＝交響曲第40番	
5．19・20	栃木労音5月例会	12	同上	新響第3オーケストラ誕生（8.18） 10.28　全ソ労組文化使節団公演（歓迎出演） 12.11　日本のうたごえ祭典（都体育館）
63．3．10・16・18・19	東京労音3月例会	13	ベートーベン＝交響曲第7番	4.10　中部うたごえ祭典（日比谷野外）
4．21	両毛労音4月例会	14	ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	
6.16・17	水戸労音6月例会	15	同上	
12.16・22・25・26・27	東京労音12月例会	16	ベートーベン＝交響曲第9番「合唱付」	
64．4．25	函館労音例会	17	ブラームス＝交響曲第1番	
4．26	江差労音例会			
4．27	室蘭労音例会			
4．28	浦河労音例会			
4．29	士別労音例会			
4．30	名寄労音例会			
5．25	第6回定期演奏会	18	ラフマニノフ＝ピアノ協奏曲第2番（独奏：井内澄子）	
8．31	サマー・コンサート	19	F・レーウェ＝「マイ・フェア・レディ」より	
10.19	東京労音（八王子）例会	20	チャイコフスキー＝交響曲第6番「悲愴」	12．12　日本のうたごえ祭典（都体育館）
65．2．3	第7回定期演奏会	21	ハイドン＝交響曲第94番「驚愕」	2.14　レコード録音（世田ヶ谷区民会館）チャイコフスキー＝交響曲第6番「悲愴」
3．28	東京労音(千葉)3月例会	22	ベートーベン＝交響曲第3番「英雄」	
4.10・14・18	東京労音4月例会	23	同上	
4．22・23・24・25・26・27・28	(愛媛，宇和島，新居浜，高知，中村，徳島，高松)労音4月例会	24	同上	
7．24・25	浜松労音7月例会	25	ベートーベン＝交響曲第6番「田園」	
8．23	サマー・コンサート	26	同上	
9．26	日立労音9月例会	27	ベートーベン＝交響曲第5番「運命」	
12．6	第8回定期演奏会	28	ドヴォルザーク＝交響曲第9番「新世界より」	

「だれでも入れるオーケストラ」という方針のもとで、新響は第二オケ、第三オケ、ブラスバンドを作りました。また、この頃の第一オケ（現在の新響）は全国各地の労音例会の為に多数の演奏旅行を重ねています。また、1964年からは、サマーコンサートを始めました。

中村一郎氏は、1961年から1967年まで新響に在籍し、この時代のインスペクタ、委員長を務めていました。

中村　一郎

発足後8年目を迎えた昭和38年頃の新交響楽団は創成期を終え、純真で音楽に対する情熱に燃える少年期のオーケストラであったと云える。当時、大都市の大学オーケストラや地域、職場団体等の吹奏楽団が活発な活動を行ないつつあり、新交響楽団は毎年、大学オーケストラ等から多くの且つ優秀なプレーヤーの入団が相次ぎメンバーを充実することが出来た。

大学オーケストラは毎年メンバーが入れ替るためアンサンブルの確立に難しい点があるが新響は団員の転勤等の場合を除きメンバーは殆んど変らず固定化されることによりアンサンブルの向上、維持が可能となる有利な条件にあった。

前年に引続き昭和38年は労音例会――東京（3月4回、12月5回）、両毛（4月）、水戸（6月2回）――での演奏会が持たれ、東京労音の仲間から生まれたオーケストラとして戦後の音楽運動の一つの成果として紹介され、広く知られるようになった。12月の東京労音例会ではベートーヴェンの第9交響曲を労音会員・同合唱団と共に演奏することになったが多くの入場希望者があったため本番で5回となり、年末の25日からは3日連続しての演奏会となった。年の瀬の忙しい時期に仕事を終えメンバー全員が開演前の会場練習に駆け付けることは大変な努力を必要としたがベートーヴェンの第9を我々仲間同志で演奏出来るという意気込みの前には何ら障害とはならず演奏会を予定通り終了することが出来た。それにしても第9は大曲であり、またベートーヴェンの交響曲はオーケストラにとって出発点であると共に究極点でもあるが、この楽聖最後の交響曲の偉大さ、壮大さを演奏して改めて知り、新響として初めての第9演奏会であったが感動を禁じ得なかった。特にこの年はベルリン・ドイツ・オペラと共に来日したカール・ベームが特別演奏会において緊張感に満ちた素晴らしい第9を演奏したがこれを聴いた新響のメンバーが何人かおり、益々強い興奮を呼び起すことになったのであった。

昭和39年には4月・5月の連休をはさんで6日間連続の北海道演奏旅行を持ったがメンバーの内には全行程を参加することが仕事の都合で難しい人もあり、そのような人は可能な範囲で交替で参加した。勿論このために必要となる航空運賃等は各自の負担であった。函館では労音会員の家に2、3名づつ分れて泊らせていただき暖かいもてなしを受けたことはとは忘れることの出来ない思い出である。函館に続いて江差（江差追分で有名）、室蘭、浦河（気象通報に出るところ）、士別、名寄の各地で演奏会を持ったが、いずれも地方色豊かな土地であり、このような機会でなければ一生訪れることがなかったところばかりであった。各地で演奏会終了後、会員との座談会が持たれたが、熱心な質問攻めに会い、また暖かい励ましの言葉を頂戴し会社を休暇をとって来た苦労などは吹きとんでしまい、反対に会員の負担において実現した演奏会を更により良いものにするためには我々オーケストラ一人一人の努力がもっと必要であることを痛感し、至らない点を強く反省する機会となった。演奏旅行のよい点はメンバーが寝食を共にすることにより相互理解に役立つこと、また、毎日をその次の演奏会に向けて全力投球することが可能となり、仕事を全く忘れて集中出来ることである。

新響は当初、労音の自主サークルとして発足し団の運営はオーケストラ自身に委ねられていたが、昭和37年9月、労音組織の一部に帰属することになり、これに伴い労音は練習場の確保、楽器・楽譜の購入に多額の予算を確保し新響の活動を財政的に支援してくれた。新響は事務局員をはじめとし会員、運営委員各位から組織として、また個人的にも様々な支援と励ましを受けたが、このような人々の善意と理解に支えられて新響に少なくとも財政的な心配をせずして練習と演奏活動に専念することが出来たのであった。

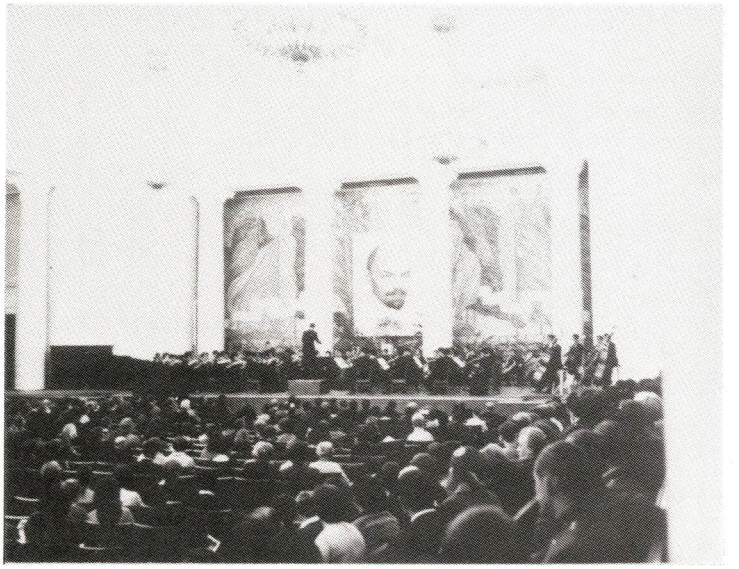
しかしながら時間の経過と共に少しづつ変化が起きた。それは音楽団体に音楽以外の目的を持ち込み政治的に利用しようとする組織的な動きが明らかになったことであった。新響に対しても演奏曲目等に対し注文がつけられ、また、音楽以外への要求が出され始め、演奏団体である新響は音楽と直接に関係のないことへの対応と交渉に時間とエネルギーを費やさざるを得なくなった。

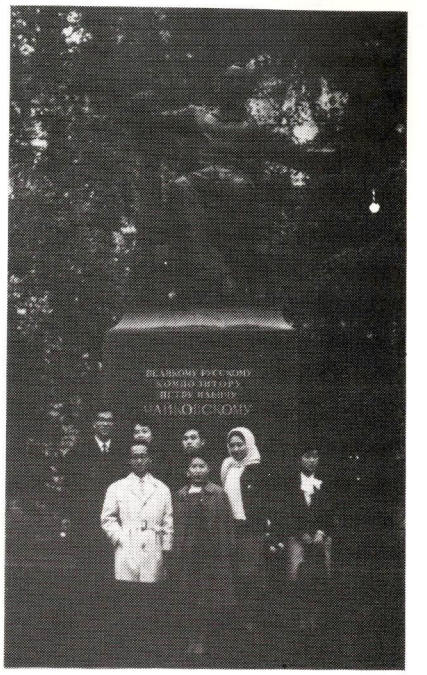
当時の代表的な左翼政党はソ連派と中国派の対立があり、漸次中国派が勢力を占め、中国は日本の将来のあるべき理想の姿であると宣伝した。これを反映して当時、中国において新作のヴァイオリン協奏曲が初演されたことが機関紙に掲載されるや否や一部の会員等からなぜ新響でもやらないのかとの注文が出され、機関紙の採り上げ方とその影響力の大きさに改めて驚かされた。当時の状況については、昭和41年、週刊朝日に約1年2ヶ月に亘り連載された山崎豊子著小説「仮装集団」（現在新潮文庫に収納）に書かれ、固有名詞等の一部は変えられているが当該団体を意味していることは明らかであり当時の新響に加えられた圧力と全く同じことが組織内部でも葛藤を生じていたことを窺い知ることが出来る。

このような動きに対して新響は純粋な音楽団体としての立場を採り続け、音楽は人種、国境を超えて人々を結び付けるものであり、思想、信条を異にする人とでも一緒に演奏することが出来るのが音楽であり、特定の政治的目的のためにこれを利用するのは正しくないことを繰り返し主張した。

しかしながら、相手側のかたくなな姿勢は益々強固となり、このままでは最悪の場合の覚悟を決めざるを得ないではないかという危惧すら持つようになった。そしてこれは昭和41年になって決定的な結末を迎えるのである。

演奏旅行——そして大曲に挑戦——





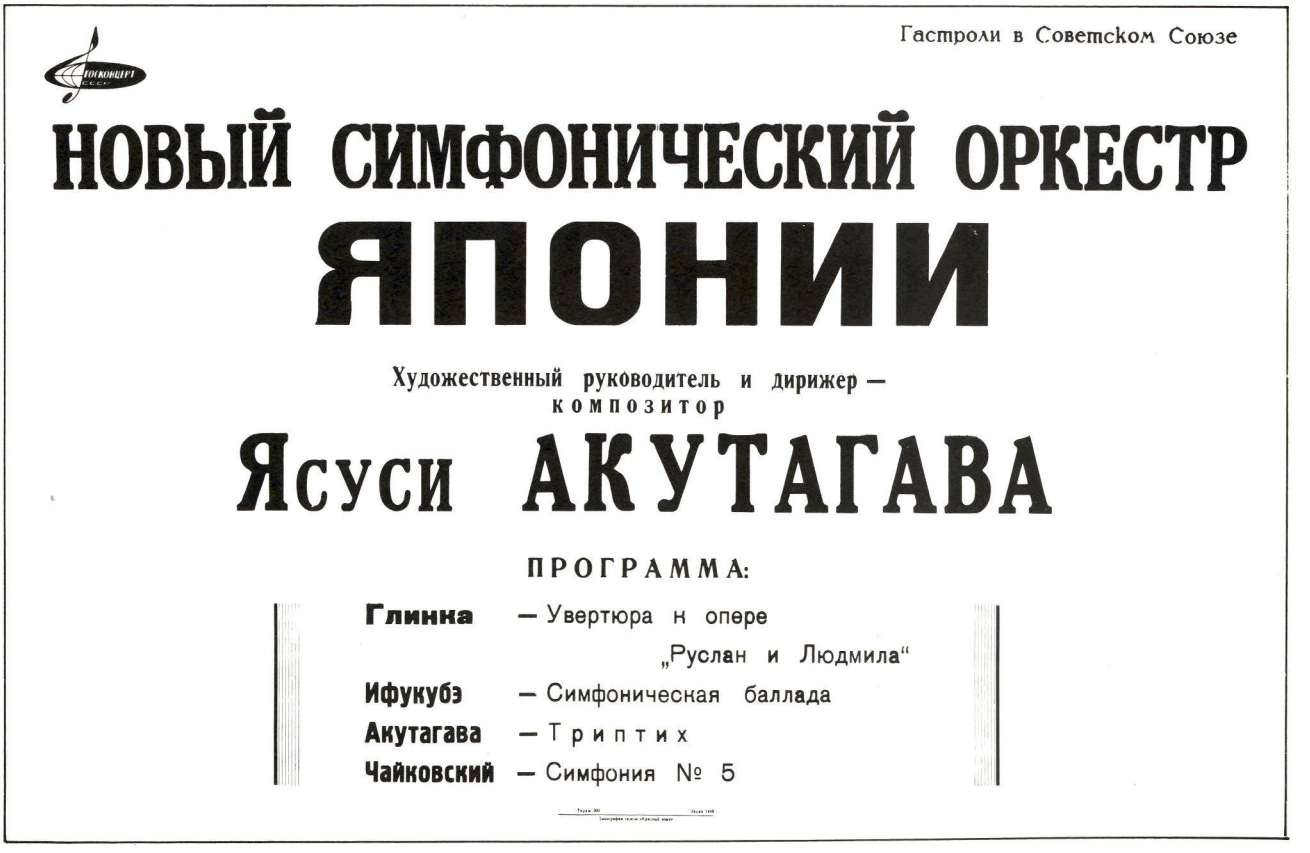
〔曲目〕

グリンカ／ルスランとリュドミラ序曲
ベルリオーズ／ローマの謝肉祭
カジラエフ／レスギンカ
カバレフスキー／組曲「道化師」より
シベリウス／フィンランディア
伊福部昭／交響譚詩
芥川也寸志／弦楽のための三楽章
チャイコフスキー／交響曲第5番

1967年
ソビエト演奏旅行

〔日程〕

9月25日　ハバロフスク
27日　イルクーツク
29，30日　モスクワ
10月3日　レニングラード



1966年、新響は労音から独立し、創立10周年を迎えました。この年、10周年記念としてベートーベンチクルスを企画し、その翌年にはソビエト演奏旅行を行なっています。
戸田昌広氏は、1960年から1980年まで在籍し、この頃の委員長を務めソビエト演奏旅行は氏の力による所が多大でありました。

戸田　昌広

横浜を出航したナホトカ航路の船が二日目の夕方、津軽海峡を抜け背後に消えて行く日本の山々を遠望しながら、いよいよこれから夢に見た外国への旅の嬉しさと、そこで演奏会を行なうという不安が入りまじって寒いデッキにじっと立ちつくしていたのが昨日のことのように思い出されます。

音楽が好きで楽器を手にする者にとって、オーケストラの一員となって演奏するのは一つの目標であり夢であります。そして十数年前には海外へ旅行するという事は我々にとってはとてもかなわぬ高い夢でした。それが両方とも実現したのですから当時の団員は幸せだったと思います。

昭和30年代後半から40年代の中頃までは実に多くの演奏旅行がありました。一週間以上のものだけでも、北海道、四国、九州沖縄、そしてソ連と遠方へ出かけております。この他に日帰りとか一泊程度のものは数知れずありました。

それでは当時なぜこんなにあちこちから新響に声がかかったかといいますと、だいたい三つの理由がありました。

20年程前は現在とは地方の事情が異なり、オーケストラを聴くには東京か大阪から招くしかなく、その他の都市にはプロはもちろんなく、(新響が北海道へ行った年に札響が出来た)アマチュアの団体はあるにはあったにせよオーケストラの形になっていない状態でした。招く側にしてもプロでは経済的に成り立たないので新響ならばという理由もあったようです。

丁度その頃になって新響自身も、演奏団体としての力を付けて来たところでした。単に団員の自己満足というだけでなく、人に聴いてもらっても何とか耐えられるように成長し演奏会の依頼に応えられるようになって来ました。そして指揮者が芥川也寸志だったことです。依頼者にとって新響が〝働らくもののオーケストラ〟というキャッチ・フレーズがあったにせよ、そこに指揮者芥川也寸志がおり、芥川氏個人を招いても多忙のため来てもらえなくても、新響と一緒だと遠くまで何日間も来てもらえる、という事もあったようです。かなり多忙な日々を送っていた芥川先生が、新響のためにならと多くの時間をやりくりして遠くまで何日も出かけていく、という姿をみて私たち団員もそれぞれがいろいろとやりくりしたり、時には学校や勤め先へ嘘をついたりして旅行に参加し楽しく充実した日々を過しました。

私たちはアマチュアですから正直云って大した技術をもってはおりません。これが20年も前では今に比べたらはるかに程度が低かったはずです。しかしいつまでも自分達の程度に合わせた曲ばかりやっていては進歩はないと考え、いつか大曲に挑戦してやろうと夢みておりました。その一つが今日演奏する〝第九〟を取り上げるということでした。その時この曲には約10ヶ月の練習期間をとり合宿も日曜日の臨時練習も沢山やったように思います。そして新響にとっては初めての試みとして、弦と管に別れたり各パート別の練習をするという方法をとりながら本当にこつこつと時間をかけてやったものでした。何故なら、そうやらなければむずかしくてこの第九は出来なかったのからです。

こうして10ヶ月かけて仕上げた〝第九〟も本番が5回あったこともあってしっかりと身に付き、当時いつも応援に来てくれていたプロの方に「新響はこの半年で見ちがえるようになったね」とほめていただき、ただただ練習にあけくれた長い月日もそれなりに成果があったのだと喜びました。丁度20年前の12月が新響の〝第九〟の初演でした。

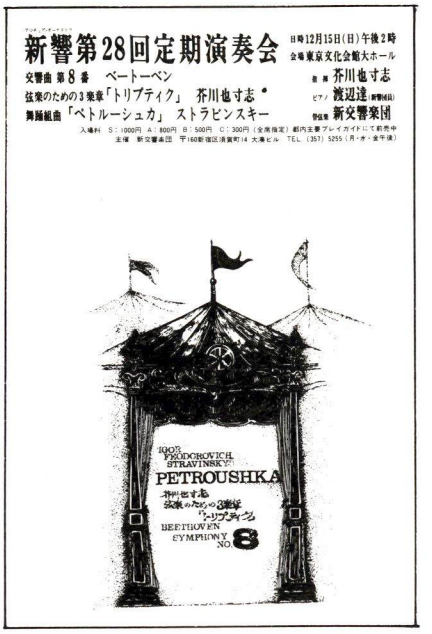
この〝第九〟から12年後に行なったストラビンスキーの3大バレー曲（火の鳥、ペトルーシュカ、春の祭典）の演奏会も大きな出来事でした。一夜の演奏会で3曲演奏しようといい出したのは芥川先生だと思いますが、当時の新響は現代曲をあまり取り上げておらず、最初に音を出した時にはその難しさと響きの違いにとまどったものでした。

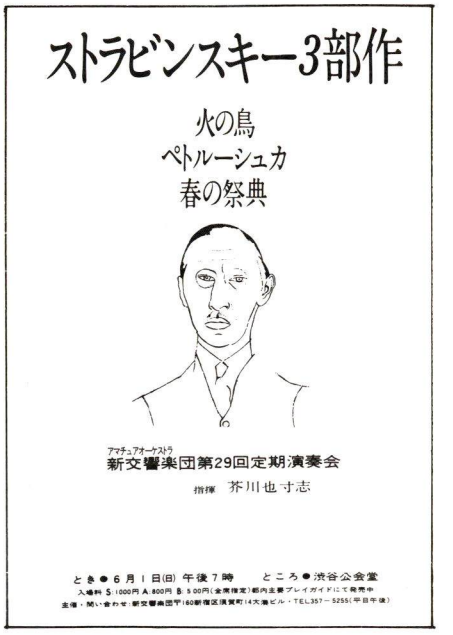
3曲上演といっても一度に手がけても出来るような代物ではなく、3年がかりでやろうという事になり最初に〝火の鳥〟次の年に〝ペトルーシュカ〟最後に〝春の祭典〟を取り上げ前の2曲もリバイバルで再演し3曲ならべるという作戦でした。

このように自分達の手にあまる大きな目標をたて、誰の助けも借りずにこつこつと時間をかけて乗り越えてゆく事によって自分自身が向上し、それが今日の新響に続いていると思います。20年前の10ヶ月の成果も、今では2ヶ月程でより程度の高い成果を楽々とあげられると思いますが、更に大きく高い目標を自分自身に課して新響がますますアマチュア・オーケストラの良き手本となるよう外から注目し期待しております。

「新響らしさ」の模索







年月日	演奏会名	回数	おもな曲目	おもな出来事
1968.4.8	第16回定期演奏会		ベルリオーズ＝幻想交響曲	5.31 日音協依頼（KR） 7.22 日ソ青年友好祭レセプション出演
10.14	第17回定期演奏会	39	交響曲第41番「ジュピター」 客演指揮：近衛秀麿	8.8 東響・新響合同演奏会
69.10.26・27・29・30,11.1・2・3・4	第1回九州沖縄芸術祭参加演奏旅行（那覇、佐賀、長崎、大分、小倉、都城、鹿児島、熊本、福岡）	44	シューベルト＝交響曲第8番「未完成」／ドヴォルザーク＝交響曲第9番「新世界より」	
12.21	鯨・新響特別演奏会“メサイア”	46	ヘンデル＝オラトリオ「メサイア」	
70.4.13	第19回定期演奏会	47	ムソルグスキー・ラヴェル＝組曲「展覧会の絵」	7.1 合唱団鯨演奏会賛助 ハイドン＝天地創造
11.4	第20回定期演奏会	49	チャイコフスキー＝交響曲第4番	
71.4.18・22	第21回定期演奏会	51	ブラームス＝交響曲第3番	6.1 合唱団鯨演奏会賛助　武満＝弦楽のためのレクイエム／フォーレ＝レクイエム／モーツァルト＝レクイエム
10.28	第22回定期演奏会	53	マーラー＝交響曲第1番「巨人」	
72.4.2	第23回定期演奏会	56	ベルリオーズ＝幻想交響曲（指揮：小林研一郎）	6.6 合唱団鯨演奏会賛助＝ブルックナー＝テデウム・ミサ第3番） 8.23 東響・新響合同演奏会
11.12	第24回定期演奏会	57	ベートーベン＝交響曲第7番	11.23 FM東京「おはようコンサート」録音
73.3.24・25	第25回定期演奏会	59	チャイコフスキー＝交響曲第6番「悲愴」	4.1 FM東京録音
11.5	第26回定期演奏会	61	ストラビンスキー＝舞踊組曲「火の鳥」	
74.3.31	新響とショスタコービッチ（第27回定期演奏会）	63	ショスタコービッチ＝交響曲第5番	
12.15	ペトルーシュカ（第28回定期演奏会）	66	ストラビンスキー＝舞踊組曲「ペトルーシュカ」	
75.6.1	ストラビンスキー3部作（第29回定期演奏会）	68	ストラビンスキー＝舞踊組曲「火の鳥」・舞踊組曲「ペトルーシュカ」舞踊組曲「春の祭典」	

この頃の新響は、演奏の向上を目指し難曲と言われている作曲に意欲的に取り組んでいました。その中でも、最も大きなイベントがストラビンスキー三部作の演奏会（第68回演奏会）です。また、この時期に九州・沖縄演奏旅行を行なっています。

太田雅夫氏は1968年から1977年まで在籍し、この頃は事務局長として新響の裏方を一手に引き受けていました。

太田　雅夫

新響の演奏会が今回で100回を数えると聞き、まずは〝お目出とう〟と申し上げます。

先年の25周年と較べてどちらがより目出度いのかはよくわかりませんが、数あるアマチュアオーケストラの中でもこれだけの期間、又は回数を積み上げている団体はそう多くはないはずです。大学であるとか県とか市とかがバックにないだけに苦労もひとしお、感慨もひとしおと思います。

さて、私は新響には、昭和43年から52年春迄、９年余り在籍させて頂きました。

新響のあゆみの中で時代区分というものがあるのか、ないのか、またどなたかが論じられているかもしれませんが、44年秋の沖縄演奏旅行以後、50年迄（正確に言えば46回から72回迄の演奏会）は一つの「時期」であったのかなあという思いがしきりにしています。

それは「新響らしさ」を盛んに模索したというと難しい表現になってまいりましたが、要は労音からの独立とか、訪ソ旅行といった団をあげてのある面で華々しさが結果としてなかった時期ということです。

演奏会のサイクルは春秋２回の定期、サマーコンサート、暮の第九、それと２～３の依頼演奏会ということでほぼ決っていましたし、曲目もどちらかというと団員が切符を売り易いことを意識して意欲的ではあったつもりですが、比較的名曲路線でした。（特に第九は新響に於てもドル箱でした。）

私は在籍当時、永く事務局長ということで運営の裏方を担当していましたので、どうしても団の採算面から物事を考えてしまうのですが、やはりこの面でも今日との差を感ぜずにはいられません。

最近の演奏曲目のことになってしまうのですが、邦人作品展と、ブルックナーとマーラーをとりあげることで切符が沢山売れて、オーケストラが運営できるとはとても思えません。ということは、運営のための大きな資金源は団費ということになる訳で、「自分達がやりたい曲、（又はやるべき曲）を、自分達でお金を出し合ってやる」ということでしょう。これこそプロに出来ない、又、他のアマチュアに出来ない「新響らしさ」なのだ、という結論が今、出されつつあるという気がしてなりません。マーラーの６番を柴田南雄氏が絶賛しておられた記事も思い出されます。

永年少くとも私の在籍中に求めていたものが、今実現しつつつある、と感じている訳ですが、その反面、当時あれこれ悩んだ新響ではなくなった訳で「自分からは少し新響は遠くなった」という感じも実はしているのです。

１００回記念に第九をやると聞いた時、ああいい選曲だなと思いました。何度やってもうまく行かないので、マンネリ打破のために昭和50年を最後に第九はやってないはずですが、やはり第九は第九であるが故に新響の十八番（おはこ）でなければならないと思うからです。

日本の交響作品展



年月日	演奏会名 回数	おもな曲目	
1975.10.19	新響・山岡・ブルックナー 70 （第30回定期演奏会）	ブルックナー＝交響曲第4番「ロマンティック」	指揮：山岡重信
76.9.3	日本の交響作品展 73 昭和8年～18年（第1日） （第73回演奏会）	平尾貴四男＝古代賛歌／箕作秋吉＝小交響曲ニ長調／大木正夫＝組曲「五つのお伽噺」／尾高尚忠＝日本組曲／早坂文雄＝古代の舞曲	
10.11	日本の交響作品展 74 昭和8年～18年（第2日） （第74回演奏会）	清瀬保二＝日本祭礼舞曲／／安部幸明＝小組曲／高田三郎＝山形民謡によるバラード／諸井三郎＝小交響曲変ロ調／伊福部昭＝交響譚詩	
77.2.1	第75回演奏会	ブラームス＝交響曲第2番	3.5 第8回鳥井音楽賞授賞式
4.4	第76回演奏会	ショスタコーヴィチ＝交響曲第7番「レニングラード」	
8.4	第77回演奏会	清瀬保二＝日本祭礼舞曲／箕作秋吉＝小交響曲ニ長調／尾高尚忠＝日本組曲／早坂文雄＝古代の舞曲／伊福部昭＝交響譚詩	
8.8	鳥井賞受賞記念コンサート		
78.4.1	第79回演奏会 小倉朗交響作品展第1夜	小倉朗＝交響組曲イ短調／日本民謡による5楽章／オーケストラのためのブルレスク／交響曲ト調	
4.26	第80回演奏会 小倉朗交響作品展第2夜	小倉朗＝オーケストラのための舞踊組曲／ヴァイオリン協奏曲／弦楽合奏のためのコンポジション／オーケストラのためのコンポジション	
8.4	第81回演奏会 サマー・コンサート	ドボルザーク＝交響曲第9番「新世界より」	指揮：尾高忠明
12.1	第82回演奏会 R.シュトラウスの夕べ	交響詩「英雄の生涯」	指揮：河地良智
79.4.6	第83回演奏会 日本の交響作品展3 「早坂文雄」	早坂文雄＝映画音楽「羅生門」より／古代の舞曲／左方の舞と右方の舞／管弦楽のための変容	
12.1	第86回演奏会	マーラー＝「花の章」／交響曲第5番	
80 4.6	第87回演奏会 日本の交響作品展4 「伊福部　昭」	伊福部昭＝オーケストラとマリムバのためのラウダ・コンチェルタータ／Vn協奏曲第2番／タプカーラ交響曲	マリムバ：安倍圭子 ヴァイオリン：小林武史
11.20	第90回演奏会	マーラー＝交響曲第6番	指揮：山田一雄
81.4.5	第91回演奏会 日本の交響作品展5 「菅原明朗」	菅原明朗＝交響写景「明石海峡」／チマローザの断章による合奏協奏曲／アコーディオンのための協奏交響曲／交響的幻影イタリア／ファンタジア	アコーディオン：御喜美江
7.29	第92回演奏会	ブルックナー＝交響曲第7番	指揮：山岡重信
9.19	第93回演奏会	マーラー＝交響曲第7番	指揮：山田一雄
11.29	第94回演奏会	ショスタコーヴィチ＝交響曲第11番「1905年」	
82.4.2	第95回演奏会 日本の交響作品展6 「清瀬保二」	清瀬保二＝郷土舞踊／エレジー／古代に寄す／ピアノ協奏曲／日本祭礼舞曲／佐藤敏直＝「哀歌」	ピアノ：林　光
7.3	第96回演奏会	ベートーベン＝交響曲第6番「田園」／バルトーク＝管弦楽のための協奏曲	指揮：山岡重信
9.15	第97回演奏会	チャイコフスキー＝交響曲第5番	
83.1.23	第98回演奏会	マーラー＝交響曲第9番	指揮：山田一雄
4.3	第99回演奏会 日本の交響作品展7 「青春の作曲家たち」	小倉朗＝交響組曲イ短調／松平頼則＝南部子守唄を主題とするピアノとオルケストルのための変奏曲／戸田邦雄＝交響幻想曲「伝説」／渡辺浦人＝交響組曲「野人」／別宮貞雄＝管弦楽のための「二つの祈り」	

現在の新響の活動が明確化されたのがこの時期で、新響の大きな特色の一つである邦人作品の演奏が始まりました。サントリー音楽賞の受賞は、新響の誇りであると共に現在の活動方針の原点ともなっています。

松本英作氏は、1971年に入団し、1976年以来理事長として団のまとめ役となっています。

松木　英作

昭和51年、新交響楽団は創立20周年をむかえました。その記念演奏会は「日本の交響作品展　昭和８～18年」と名付けたもので、現在ほとんど演奏されることのない戦前の日本人作品ばかりを取り上げたものでした。

20周年記念演奏会は当初は10周年のときに行なったベートーヴェン連続演奏会を再びとりあげるという企画が検討されておりましたが、東京文化会館が２回公演分しか確保されなかったため実現できなくなりました。昭和51年正月、芥川先生から、新響のもっているアマチュアオーケストラの特徴を最大限に生かすには戦前の作品を取り上げるのが最も良いという提案がありました。団員のほとんどは御名前すら知らない作曲家の作品をとりあげることに最初はかなりの抵抗感がありましたが、楽譜を集め、何曲かは団員が写譜し、作品年表を作り、約半年間の練習をかけて同年９月、10月東京文化会館で演奏会を行ないました。

半年間の練習では、毎回芥川先生の熱のある指導が続き、しかも、10名の作曲家の心を再現する様な指揮がこの演奏会の成功のもとになりました。

翌年(昭和52年)、新交響楽団は芥川也寸志先生と共に第８回サントリー音楽賞（旧鳥井音楽賞）を受賞いたしました。皆様御存じの様にサントリー音楽賞は、毎年わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績のあった日本人に贈られるもので今年で14回を数えますが、アマチュアの団体で受賞しているのは新響のみです。このことから20周年演奏会の企画と演奏がいかに大きな社会的意義を持っていたかが理解されると思います。それまではアマチュア団体がこの様な栄誉を受けられるとは思ってもいませんでした。これからも新響と同じ様なアマチュア団体でも、それぞれの特徴を生かし、アマチュアとしての利点を生かし活動すれば、すこしずつでも社会的存在となりうるのではないでしょうか。

サントリー音楽賞受賞記念演奏会は昭和52年８月に東京文化会館と大阪のフェスティバル・ホールで行なわれました。日本人作品の演奏会としてはびっくりする様な超満員のお客様の前で演奏できたことは芥川先生、団員一同大感激をいたしました。

その後日本の交響作品展は継続され、今年で第７回を数えております。この演奏会では20周年と同様に、あまり演奏されることのない先達の作品をとり上げております。絵や文学の場合は個展や、全集は当然のことなのですが、音楽界ではあまり行なわれないのは非常に残念なことだったわけです。新響は個展という形で行なうことにより作曲家の音楽観や主張を表現してきたわけです。それとともに演奏会プログラムも作曲家の資料となりうるもので多方面より大きな評価を得ております。

新響は年４回の自主演奏会を行なっていますが、毎回の演奏会をただ楽しみばかりではなく毎回違った意味をもった演奏会にしようと考えました。４つのシリーズにそれぞれ、「企画シリーズ」、「基礎シリーズ」、「名曲シリーズ」、「挑戦シリーズ」と名づけました。企画シリーズでは日本の交響作品展を行ない、基礎シリーズでは古典作品を中心にとりあげ合宿等も行ない、合奏力の向上をねらいました。名曲シリーズではレパートリーとなり得る様な名曲を中心とし、依頼演奏会や演奏旅行にも応じられる様にしました。また昭和50年に行なったストラビンスキー３部作以来、編成の大きい難曲と言われている曲を「挑戦シリーズ」と名付け、リヒャルト・シュトラウス、ブルックナー、ショスタコービッチ、マーラー等をとりあげています。現在は昭和54年より年１回客演指揮山田一雄氏によりマーラーの交響曲を連続してとり上げており今年で５回目となり交響曲第２番「復活」を予定しております。

この様に新交響楽団は、これからも芥川也寸志さんを中心にアマチュアとしての利点を生かした独自の活動を続けてゆこうとしています。100会以後の新響の活動に皆様も御支援下さい。

新交響楽団第100回演奏会

6月26日（日）2時
新宿文化センター

芥川也寸志
Yasushi Akutagawa

交響管弦楽のための音楽
Musica per Orchestra Sinfonica

Ⅰ. *Andantino*
Ⅱ. *Allegro*

指揮
芥川也寸志

独唱
常森寿子（ソプラノ）
伊原直子（アルト）
林　誠（テノール）
栗林義信（バリトン）

合唱
湘南市民コール
松原混声合唱団
合唱指揮
関屋　晋

ルートヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven

交響曲第9番　ニ短調　作品125「合唱つき」
Symphonie Nr. 9 d-moll op. 125
(Sinfonie mit Schlusschor
über Schillers Ode: An die Freude)

Ⅰ. *Allegro ma non troppo, un poco maestoso*
Ⅱ. *Molto vivace*
Ⅲ. *Adadio molto e cantabile*
Ⅳ. *Presto——Allegro assai*

吉田　勉

新響もいよいよ第100回演奏会を迎える運びとなりました。回数で比べるなら、N響の903回、日フィルの353回などは遙か彼方ですが、しかし新響の1回にはいわば手作りの重みがあります。1年以上前から企画を練り、曲目・指揮者の決定、会場の確保、チケット・プログラム等の手配、練習スケジュールの作成、その間に数々のトラブル。そして、期待にいか程かの不安が溶け込んだ甘酸っぱい気持ちで当日を迎える――そういうドラマに想いを馳せると、100回というのは実に気の遠くなるような回数に思えます。営々たる100回、27年の歩み、このアマチュアオケを支えてきたエネルギーは奈辺にありや。

演奏会の一過性からして、次代に残ってゆくものは決して多くはありません。そんな中で我々が手にする「新響運営規約」は、新響の歴史を語る確かな遺産と言えます。21ヶ条中、核心となる第2条〔目的〕をここにご紹介すれば、

「団はアマチュア団体としてオーケストラの演奏を通じて音楽に親しみ、団員相互の親睦と成長に役立てると共に、広汎な人々に接して、我が国の文化的発展に寄与することを目的とする。」

新響は、職業上のつながりも、地域的なつながりも、学生時代のつながりも無い様々な100人からの人間が、ひたすら良い音楽の為に集まっている団体です。音楽以外に共通基盤を持たないという緊張感が絶えず団の存在意義、活動姿勢を問うことにつながり、100回の歩みを支えてきたのかもしれません。――自分達の楽しみだけに終ることなく、アマチュアだからとexcuseすることなく、一演奏団体として意義ある活動をしたい。自分達の音楽を世に問うて行きたい――。

それではこれからの100回、四半世紀のタームで新響の目指していくものは何か。具体的活動内容は各回の当事者が決めてゆくこととしても、その方向性を示すものとして、次の3つは新響200回演奏会への課題となると考えます。

①新響アンサンブルの確立――技術的要素と精神的要素が調和した、これぞ新響と言う音づくり・音楽づくりを目指したい。

②独自の視点に立ったプログラミング――古今東西の音楽の中から新響にとっての名曲は何かを考えつつ曲目選択をしてゆきたい。

③活動の場・活動形態の多様化――コンサートはもっと聴衆と団員間のコミュニケーション豊かな音楽的かつヒューマンな空間でありたいと願います。そしてもっとその空間を広げてゆきたいと思います。そのために演奏会形式そのものの工夫や東京近郊での定期的音楽活動、また演奏旅行企画等に積極的にとり組んでゆきたい。

我々の演奏技術からすれば、日本の音楽文化への貢献はいかばかりのものかと思いますが、しかしかかる目的で、かかる自主運営団体が存在しうることを実証してゆくことの意義は決して小さくないと考えます。日本文化は一握りのプロによってではなく常に暖かい拍手を送って下さる皆様方と我々の如き一般大衆によって、主体的意志のもとに担われてゆく、今そんな時代にあると思います。

曲目別演奏記録

〔注〕指揮者は特記以外　芥川也寸志。

作曲者	曲名・演奏期日・場所
安部幸明	小組曲　76.10.11（74）文化
芥川也寸志	交響三章　79.8.4（85）文化
	交響管弦楽のための音楽　71.10.28（53）厚生，83.6.26（100）新宿
	チェロとオーケストラのためのコンチェルトオスティナート　81.7.29（92）山岡重信・文化
	弦楽のための三楽章　66.4.4（29）日比谷，67.8.17（35）文化，67.9.25（36）ハバロフスク，9.27　イルクーツク，9·29·30 モスクワ，10.3．レニングラード，71.12.15（66）文化
アンダーソン	クリスマス・フェスティバル　77.12.18　福生
J．C．バッハ	シンフォニア変ロ長調　69.2.2（41）石岡，69.4.1（42）文化
J．S．バッハ	トッカータとフーガ ニ短調（ストコフスキー編）63.12.16（16）文化，12.22·25·26·27 厚生，72.12.15（58）·17　小林研一郎・日比谷
	パッサカリアとフーガ ハ短調（ストコフスキー編）71.12.15(54)·17　日比谷，72.2.7（55）日比谷
	パッサカリア（菅原明朗編）81.11.29（94）文化
	小フーガ ト短調（ストコフスキー編）68.12.23·26（40）日比谷
	管弦楽組曲第3番　60.11.28（6）大田区
バーバー	弦楽のためのアダージョ　70.11.21(50)·23　共立
バルトーク	弦楽のためのディベルティメント　77.2.1（75）堤俊作・虎ノ門
	オーケストラのための協奏曲　82.7.3（96）山岡重信・簡易
ベートーベン	交響曲第1番　60.5.15(5）熊谷，66.9.5（30)虎ノ門
	交響曲第2番　66.9.5（30）虎ノ門
	交響曲第3番　65.3.28（22）千葉，4.10（23）文化，4.10（23）文化，4.14　共立，4.18　渋谷，4.22（24）松山，4.23　宇和島，4.24　新居浜，4.25　高知，4.26　中村，4.27　徳島，4.28．高松，66.9.5（30）虎ノ門，77.10.30（78）河地良智・神奈川県民，11.6　渋谷
	交響曲第4番　66.10.2（31）虎ノ門
	交響曲第5番　57.11.21（1）青年館，59.5.17（3）会津，60.1.23（4）上田，63.3.10(13）日比谷，3·16·18　文化，3.19　産経，4.21（14）足利，6.16（15)·17　水戸，　65.9.26(28）日立，66.10.2（31）虎ノ門，69.2.2（41）石岡，77.10.30（78）河第良智・神奈川県民，11.6　河地良智・渋谷，77.12.18　福生市民
	交響曲第6番　65.7.24（25)·25　浜松，8.23（26）文化，66.11.7（32）虎ノ門，73.8.18(60）文化，82.7.3（96）山岡重信・簡易
	交響曲第7番　63.3.10(13）日比谷，3·16·18 文化，3.19　産経，66.11.7（32）虎ノ門，72.11.12（57）文化，70.6.15(88）河地良智・文化
	交響曲第8番　65.12.6（28）日比谷，66.12.19（33）虎ノ門，74.12.15（66）文化
	交響曲第9番　63.12.16（16）文化，12.22·25·26·27 厚生，66.12.19（33）虎ノ門，68.12.23（40)·26 日比谷70.12.21（50)·23 共立，71.12.15（54)·17 日比谷，72.12.15(58)·17　日比谷，73.12.19（62)·21 サンプラザ，75.12.8（71)·9　郵便，83.6.26＿＿(100）新宿
	ピアノ協奏曲第1番　68.4.1（42）文化
	ピアノ協奏曲第3番　72.4.2（56）小林研一郎・文化
	ピアノ協奏曲第4番　74.5.17(64）杉並
	ヴァイオリン協奏曲　71.4.18(51）千葉，4.22　虎ノ門
	エグモント序曲　59.5.17(3）会津，66.11.7（32）虎ノ門
	レオノーレ序曲第3番　66.10.2（31）虎ノ門
別宮貞雄	管弦楽のため「二つの祈り」83.4.3（99）文化
ベルリオーズ	幻想交響曲　68.4.8（38）厚生，72.4.2（56）小林研一郎・文化
	「ファウストの却罰」より　65.8.23(26）文化，73.11.12（57）文化
ビゼー	アルルの女第2組曲　61.4.25(7）共立，74.8.10（65）文化，8.25　神奈川県立
	カルメン第1組曲　74.8.10(65）文化，8.25　神奈川県立
ボロディン	中央アジアの草原にて　66.4.4（29）日比谷
ブラームス	交響曲第1番　64.4.25(17）HBC，4.26　江差，4.27　室蘭，4.28　浦河，4.29　士別，4.30　名寄，5.25(18）日比谷，80.9.6（89）山岡重信・文化
	交響曲第2番　67.12.14（37）日比谷，77.2.1（75）堤俊作・虎ノ門
	交響曲第3番　71.4.18（51）千葉，4.22　虎ノ門
	交響曲第4番　67.4.17(34）日比谷
	大学祝典序曲　68.4.8（38）厚生，75.10.19（70）山岡重信・日比谷

作曲者	曲名・演奏期日・場所
ブリテン	青少年のための管弦楽入門　71.8.10(52）小林研一郎・文化
ブルックナー	交響曲第4番　75.10.19（70）山岡重信・日比谷
	交響曲第7番　81.7.29(92）山岡重信・文化
シャブリエ	狂詩曲「スペイン」64.5.25(18）日比谷，76.3.29（70）郵便
コレルリ	合奏協奏曲ハ長調op.6　67.12.14（37）日比谷，
ドビッュッシー	小組曲　67.12.14（37）日比谷
	牧神の午後への前奏曲　74.3.31(63）文化
ドボルザーク	交響曲第8番　74.5.17(64）杉並
	交響曲第9番「新世界」61.4.25(7）共立，11.2（8）文京，11.19(9）秩父，11.22(10）熱海，65.12.6（28）日比谷，69.10.26（44）那覇，10.29　佐賀，10.30　長崎，11.1　大分，11.2 小倉　11.3　都城，11.4　鹿児島，10.27(45）熊本，11.2　福岡，78.8.4（81）尾高忠明・郵便
	スラブ舞曲第1番，10番　65.8.23(26）文化
エルガー	威風堂々　71.8.10(52）文化
ガーシュウィン	パリのアメリカ人　73.8.18(60）文化
グリンカ	「ルスランとリュドミラ」序曲　63.3.10(13）日比谷，3.16·18　文化，3.19　産経，64.4.25(17）函館，4.26　江差，4.27　室蘭，4.28　浦河，4.29　士別，4.30　名寄，67.9.25(36）　ハバロフスク，9.27　イルクーツク，9.29·30　モスクワ，10.3　レニングラード
グルック	「アウリスのイフゲニア」序曲　62.1.23(4）上田
グールド	ラテンアメリカンシンフォニエッタ　75.8.9（69）文化
グリーグ	オーゼの死　57.11.21（1）青年館
グローフェ	組曲「ミシシッピー」69.8.4（43）文化
	組曲「大峡谷」70.8.20(48）文化
早坂文雄	古代の舞曲　76.9.3（73）文化，77.8.4（77）文化，8.8　大阪フェスティバル，79.4.6（83）文化
	「羅生門」より　79.4.6(83）文化
	左方の舞右方の舞　79.4.6(83）文化
	管弦楽のための変容　79.4.6(83）文化
ハイドン	交響曲第94番「驚愕」65.2.3（21）日比谷，3.28（22）千葉，4.10(23）文化，4.14　共立，4.18　渋谷，4.22(24）松山，4.23　宇和島，4.24　新居浜，4.25　高知，4.26　中村，4.27　徳島，4.28　高松
	交響曲第101番「時計」70.4.13(47）日比谷
ヘンデル	オラトリオ「メサイア」69.12.21（46）厚生，79.12.15，80.12.13，81.12.19　中村義光・沼津
	組曲「水上の音楽」70.8.20(49）文化
ヒンデミット	ウェーバーの主題による交響的変容　79.6.2（84）河地良智・日比谷
平尾貴志雄	古代讃歌　76.9.3（73）文化
伊福部　昭	交響譚詩　66.4.4（29）日比谷，67.8.17(25）文化，67.9.25（36）　ハバロフスク，9.27　イルクーツク，9.29·30　モスクワ，　10.3　レニングラード，76.10.11(74）文化，77.8.4（77）文化，8.8　大阪，77.12.8　福生市民
	タプカーラ交響曲　80.4.6（87）文化，81.1.18　福生市民
	オーケストラとマリムバのためのラウダ・コンチェルタータ　80.4.6（87）文化
	ヴァイオリン協奏曲第2番　80.4.6（87）文化
	日本狂詩曲　82.9.15(97）文化
	酋長の行列　60.5.15(15）熊谷
イワノフ	
ガバレフスキー	組曲「道化師」67.8.17(35）文化，9.25（36）ハバロフスク，9.27　イルクーツク，　9.29·30 モスクワ，10.3　レニングラード
カジラエフ	レスギンカ　67.9.25(36）ハバロフスク，9.27　イルクーツク，9.29·30　モスクワ，10.3 レニングラード
ハチャトリアン	「ガイーヌ」組曲　67.4.17(34）日比谷，74.8.10（65）文化，74.8.25　神奈川県立
清瀬保二	日本祭礼舞曲　76.10.11（74）文化，77.8.4（77）文化，8.8　大阪フェスティバル，82.4.2(96）文化
	郷土舞踊　82.4.2（95）文化
	エレジー　82.4.2（95）文化
	古代に寄す　82.4.2（95）文化
	ピアノ協奏曲　82.4.2（95）文化
レオン・カバルロ	「道化師」より間奏曲　78.8.4（81）尾高忠明・郵便
リスト	ハンガリー狂詩曲第2番　70.8.20（48）文化
	交響詩「前奏曲」　70.4.13(47）日比谷
マーラー	交響曲第1番　71.10.28（50）厚生，72.2.7（55）日比谷

作曲者	曲名・演奏期日・場所
	交響曲第5番　79.12.1（86）山田一雄・文化
	交響曲第6番　80.11.20（90）山田一雄・日比谷
	交響曲第7番　81.9.19(93）山田一雄・新宿
	交響曲第9番　83.1.23(98）山田一雄・簡易
	花の章　83.12.1　(86）山田一雄・文化
松平頼則	南部子守唄を主題とするピアノとオルケストルのための変奏曲　83.4.3（99）
メンデルスゾーン	交響曲第4番「イタリア」73.11.5（61）サンプラザ
	ヴァイオリン協奏曲　68.4.8（38）厚生，72.2.7（55）日比谷
	結婚行進曲　46.8.10(52）文化
箕作秋吉	小交響曲ニ長調　76.9.3（73）文化，77.8.4（77）文化，77.8.8（77）大阪フェスティバル
諸井三郎	小交響曲変ロ調　76.10.11（74）文化
モーツァルト	交響曲第35番「ハフナー」74.3.31（63）文化，83.1.23（98）山田一雄・簡易，
	交響曲第36番「リンツ」72.4.2（57）小林研一郎・文化
	交響曲第40番　60.11.28（6）大田区，62.4.24(11）文京，4.26　厚生，4.29　文京，4.30 日比谷，5.19(12)·20　栃木，68.10.14（39）近衛秀麿・虎ノ門，69.2.2（41）石岡
	交響曲第41番「ジュピター」58.11.12（2）青年館，68.10.14(39）近衛秀麿・虎ノ門
	フルート協奏曲第2番　71.10.28（53）厚生
	ファゴット協奏曲　75.10.19（70）山岡重信・日比谷
	2台のピアノのための協奏曲K365　47.11.12(57）文化
	ピアノ協奏曲第76番「戴冠式」58.11.12(2）青年館，73.11.5（61）サンプラザ
	コンツェルト・ロンドニ長調　80.11.20（90）山田一雄・日比谷
	「魔笛」序曲　68.10.14（39）近衛秀麿・虎ノ門
	「後宮からの逃走」序曲　70.11.4（49）共立
	「劇場支配人」序曲　58.11.12（2）青年館，60.1.23（4）上田
	「フィガロの結婚」序曲　81.1.18　福生市民
	アイネのクライネナハトムジーク　58.11.12（2）青年館
	モテット「おどれ，喜べ，なんじ幸なる魂よ」　68.10.14(39）近衛秀麿・虎ノ門
	レクイエム　75.4.23（67）文京
ムソルグスキー	展覧会の絵（ラベル編）70.4.13(47）日比谷，75.8.8（69）文化
ニコライ	「ウインザーの陽気な女房たち」序曲　70.8.20(48）文化
尾高尚忠	日本組曲　76.9.3（73）文化，77.8.4（77）文化 8.8　大阪フェスティバル
オッフェンバック	「天国と地獄」序曲　70.8.20（48）文化
小倉　朗	交響曲組曲イ短調　78.4.1（79）文化，83.4.3（99）文化
	日本民話による5楽章　78.4.1（79）文化
	オーケストラのためのブルレスク　78.4.1（79）文化
	交響曲ト調　78.4.1（79）文化
	オーケストラのための舞踊組曲　78.4.26(80）日比谷
	ヴァイオリン協奏曲　78.4.26(80）日比谷
	弦楽合奏のためのコンポジション　78.4.26(80）日比谷
	オーケストラのためのコンポジション　78.4.26(80）日比谷
大木正夫	組曲「五つのお伽噺」76.9.3（73）文化
オルフ	カトゥーリ・カルミナ，アフロディテの勝利，カルミナ・ブラーナ　77.11.20　日比谷
プーランク	牡鹿　77.2.1（75）堤俊作・虎ノ門
ポンセ	エストレリータ　60.5.15(5）熊谷
プロコフィエフ	「ロメオとジュリエット」より　80.6.15(88）河地良智・文化
	ピーターとおおかみ　83.8.18(60)小林研一郎·文化
	キージエ中尉　76.3.29(72）郵便
ラフマニノフ	ピアノ協奏曲第2番　64.5.29(18）日比谷
ラベル	ボレロ　65.8.23(26）文化
レスピーギ	古代舞曲とアリア第3番　67.4.17(34）日比谷
リムスキー・コルサコフ	シェヘラザード　71.8.10(52）文化
ロッシーニ	「どろぼうかささぎ」序曲　78.8.4（81）尾高忠明・郵便
佐藤敏直	哀歌　82.4.2（95）文化
シューベルト	交響曲第5番　70.11.4（49）外山雄三・共立
	交響曲第8番「未完成」59.5.17(3）会津，60.1.23（4）上田，5.15(5）熊谷，61.11.2（8）東京，11.9（9）秩父，11.22(10）熱海，63.4.21（14）足利，6.16（15)·17　水戸，64.4.25（17）札幌，4.26　江差，4.27　室蘭，4.28　浦河，4.29　士別，4.30　名寄，10.19(20）八王子，65.7.24(25)·25　浜松，9.26（27）日立 69.10.26（44）那覇，10.29　佐賀，10.30　長崎，11.1　大分，11.2　小倉，11.3　都城，11.4　鹿児島，75.4.23(67）文京

作曲者	曲名・演奏期日・場所
	交響曲第9番「グレート」79.6.2（84）河地良智・日比谷
ショスタコーヴィチ	交響曲第5番　69.4.1（42）文化，74.3.31(63）文化
	交響曲第7番「レニングラード」77.4.4（76）文化
	交響曲第11番「1905年」81.11.29（94）文化
	祝典序曲　82.9.15　(97）文化
シベリウス	交響曲第2番　66.4.4（29）日比谷，76.3.29(72）郵便
	フィンランディア　61.4.25(7）共立，62.4.24(11）文京，4.26　厚生，4.29　文京，4.30　日比谷，5.19（12)·20　栃木，77.9.25(36）ハバロフスク，9.27　イルクーツク，9.29·30　モスクワ，10.3　レニングラード，75.12.8（71)·9郵便
	カレリア組曲　62.4.24(11）文京，4.26　厚生，4.29　文京，4.30　日比谷，5.19(12)·20　栃木，日比谷
スメタナ	「売られた花嫁」序曲　65.2.3（21）日比谷，3.28.（22）千葉，65.4.10(23）文化，4.14　共立，4.18　渋谷，4.22(24）松山，4.23　宇和島，4.24　新居浜，4.25　高知，4.26　中村，4.27　徳島，4.28　高松
J.シュトラウスI	ラデツキー行進曲　57.11.21（1）　青年館，59.5.17（3）会津
J.シュトラウスII	「こうもり」序曲　64.8.31(19）文化，10.19(20）八王子，69.8.4（43）文化，10.26(44）那覇，10.29　佐賀，10.30　長崎，11.1　大分，11.2　小倉，11.3　都城，11.4　鹿児島，10.27(45）熊本，11.2　福岡，75.8.9（69）文化
	ウィーンの森の物語　69.8.4（43）文化，75.8.9（69）文化
	皇帝円舞曲　60.5.15(5）熊谷，63.4.21(14）足利，6.16(15)·17　水戸，64.8.31(19）文化
	芸術家の生涯　57.11.21（1）青年館
	トリッチトラッチポルカ　75.8.9（69）文化
	ポルカ「狩」75.8.9（69）文化
R.シュトラウス	ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら　78.12.1（82）河地良智・日比谷
	楽劇「サロメ」より　7つのベールの踊り　78.12.1（82）河地良智・日比谷
	交響詩「英雄の生涯」78.12.1（82）河地良智・日比谷
ストラビンスキー	火の鳥　73.11.5（61）サンプラザ，75.6.1（68）渋谷
	ペトルーシュカ　74.12.15（66）文化，75.6.1（68）渋谷
	春の祭典　75.6.1（68）渋谷 75.9.6（89）山岡重信・文化
ズッペ	軽騎兵序曲　45.8.20　文化
菅原明朗	交響写景「明石海峡」81.4.5（91）文化
	チマローザの断章による合奏協奏曲　81.4.5（91）文化
	アコーディオンのための協奏交響曲　81.4.5（91）文化
	交響的幻影「イタリア」81.4.5（91）文化
	ファンタジア　81.4.5（91）文化
高田三郎	山形民謡によるバラード　81.10.11（74）文化
タイケ	旧友　71.8.10(52）文化
チャイコフスキー	交響曲第4番　70.11.4（49）外山雄三・共立
	交響曲第5番　61.11.2（8）文京，11.19(9）秩父 11.22(10）熱海，62.4.24(11）文京，4.26　厚生，4.29　文京，4.30　日比谷，5.19·(12)·20　栃木，67.8.17(35）文化，9.25(76）ハバロフスク，9.27　イルクーツク，9.29·30　モスクワ，10.3　レニングラード，82.9.15(97）文化
	交響曲第6番　64.10.19（20）八王子，65.2.3（21）日比谷，73.3.24(59）文化，3.25　神奈川県民，77.8.4（85）文化
	「白鳥の湖」より64.8.31(19）文化，74.8.10(65）文化，8.25　神奈川県民，81.1.18 福生市民，
	「くるみ割り人形」より　71.8.10(52）文化
	眠れる森の美女　69.8.4（43）文化
	イタリア奇想曲　73.3.24(59）文化，3.25　横浜
	ヴァイオリン協奏曲　69.10.27（45）熊本，11.2 福岡
戸田邦雄	交響幻想曲「伝説」83.4.3（99）文化
ヴェルディ	「運命の力」序曲　78.8.4（81）尾高忠明・郵便
	「椿姫」前奏曲　78.8.4（81）尾高忠明・郵便
ワーグナー	「トリスタンとイゾルテ」より前奏曲と愛の死　73.12.19（62)·21　サンプラザ
	「ローエングリン」第3幕への前奏曲　65.9.26(27）日立，12.6（28）日比谷
渡辺浦人	交響組曲「野人」83.4.3（99）文化
ウェーバー	「魔弾の射手」序曲　63.4.21(14）足利，6.16(15)·17　水戸，65.7.24(25)·25　浜松，8.23(26）文化

独唱者

常森　寿子（つねもり・としこ）ソプラノ

東京芸術大学卒業。
服部幸次、浅野千鶴子に師事。
1966年、「カルメン」のミカエラでデビュー。その後「マノン」のブセットなどに出演して1968年に渡欧。ローマ（サンタチェチリア音楽院）、シエナ、ミラノ、ルガーノ（スイス）に留学し、ジョルジョ・ファバレット、ロート・マーリングに師事。
その間1970年にロニーゴ国際声楽コンクール第2位、ジュネーブ国際声楽コンクール第3位・銀賞を受賞。
1972年に帰国。「フィガロの結婚」のスザンナ、「ドン・ジョバンニ」のツェルリーナ、「ジャンニ・スキッキ」のラウレッタなどを歌うほか、リサイタル、N響ほか各オーケストラと協演。1977年には「フィデリオ」のツェルリーナ、「ルチア」のルチアなどの名演でウィンナワルド・オペラ賞、第9回鳥井音楽賞（現サントリー音楽賞）を受賞。
その後も「カルミナ・ブラーナ」のソプラノ、「ウィンザーの陽気な女房たち」のアンナ・ライヒ、「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテルなどで活躍を続けている。　二期会会員

伊原　直子（いはら・なおこ）メゾ・ソプラノ

東京芸術大学卒業。同大学院修了。
戸田敏子・中山悌一に師事。
1967年、安宅賞を受賞。1969年、ワーグナーの「ラインの黄金」のエルダでオペラにデビュー。続いて「カルメン」のタイトル・ロールで好演。N響、日フィル、読響その他主要オーケストラと協演し、コンサートの分野でも高い評価を得る。
1970年、芸術選奨文部大臣新人賞及びM. B. C. A. J. 賞を受賞。
1971年、西独政府給費留学生としてミュンヘン音楽大学に留学し、E・ヘフリガーに師事。傍らベルン歌劇場、ドイツ、スイス、各地でオラトリオを歌う。
1975年、フランスのラインオペラ（ストラスブール歌劇場）と専属契約を結ぶと共にヨーロッパ各地で活躍。
1980年、二期会オペラ小沢征爾指揮の「カルメン」のタイトル・ロール、A・エレーデ指揮の「トロヴァトーレ」のアズチェーナを歌い、第8回ウインナワルド・オペラ賞大賞を受賞。その後もフランス、ベルギーで活躍し、1981年に帰国。　二期会会員

林　　誠（はやし・まこと）テノール

1945年三重県に生まれ、1971年大阪音楽大学大学院を首席で卒業。1971年度イタリア声楽コンコルソにてシェナ大賞受賞。第41回音楽コンクール第3位入賞。第3回マダムバタフライコンクール日本代表選考会にて第1位。同世界コンクール第4位。第10回日伊声楽コンコルソにて第2位。スペイン・バルセロナにおけるマリア・カナーロス国際コンコルソにて優秀賞受賞。第10回民音コンクール第3位入賞など数々の賞を受賞。
1971年ミラノに、また1975年にはドイツ・ベルリンに留学。永井八重子、山本徹、V. Cinque、A. Banderaの諸氏に師事。
1976年度大阪文化祭賞、音楽クリティッククラブ奨励賞、大阪府民劇場奨励賞を受賞。1979年度大阪文化祭賞受賞。1982年5月の東京初リサイタルの歌唱などにより、昭和57年度芸術選奨・新人賞を受賞。また同年度サントリー音楽賞にノミネートされた。
関西歌劇団に所属。大阪音楽大学講師。

栗林　義信（くりばやし・よしのぶ）バリトン

東京芸術大学卒業。矢田部勁吉、柴田睦陸に師事。
1956年音楽コンクール第一位受賞、文化放送音楽賞受賞。
1958年、藤原歌劇団の「トスカ」のスカルピアでデビュー。この歌唱に対し翌年毎日音楽賞を受賞。
1958年、海外コンクール派遣特別審査会で第一位。同年9月北イタリアのヴェルチェルリ市に於ける「ビオッティ国際声楽コンクール」で金賞受賞。1962年、「イタリアの歌の歌唱」で大阪市民芸術賞、1964年、前年の都民劇場の「椿姫」に対し毎日芸術賞を受賞。1969年、ソ連に招かれ、「リゴレット」、「椿姫」に客演。1970年、外務省文化使節として東南アジアの「夕鶴」公演に参加、1973年、高田三郎のオペラ「蒼き狼」により毎日芸術賞を受賞。1967年、第7回鳥井音楽賞（サントリー音楽賞）を受賞。1979年、日中友好会社の招きで「夕鶴」の中国公演に参加。1982年、昭和56年度第32回芸術選奨文部大臣賞を受賞。　二期会会員

合唱団

湘南市民コール

'52年、藤沢市を本拠地として創立。'59年に関屋先生を常任指揮者に迎える。'68～'77年、全日本合唱連盟合唱コンクール全国大会に関東代表として、10年連続出場。'75年の金賞受賞を含め、常に上位入賞。'76年、神奈川文化賞受賞。'79年、ブルガリアのヴァルナ国際合唱コンクールで、一般の部第2位。'78年以降、小澤征爾指揮の新日フィルムを初め、プロオーケストラとの共演多数。7月16日に、第31回定期演奏会を、藤沢市民会館で開く。

ソプラノ
高橋寿々美
宇野　桂子
千野　米子
大川伊基子
門井　弘子
土屋　由紀
二橋美紀子
沢井　敦子
渡辺　深雪
松井佐枝子
仲佐美都里
熊谷　美穂
比留間菜月
中戸川友子
池田美佳子
山田美千代
田中　亜紀
酒井　美恵
江口和嘉子
相馬美紀子
奥村　みや
高橋　慶子

アルト
山沢　多美
溝口　　泉
高橋　俊江
伊集院恭子
田中　栄子
山本紀代子
寄特千恵美
中野　たづ
杉中　直子
高橋　彩子
中村真緒子
高橋満里子
平山　和子
木屋　明子
佐々木伸子
高田　裕子
宇野　祥子
神谷寿美子

テノール
茹　耕太郎
久宗　広介
渡辺　英昭
門井　淑治
菊地　晃彦
宮根　一夫
上谷　　力
吉田　　真
相川　　智
中西　通雄
磯部　博司
村田　浩三

バス
高橋　真一
外谷　善男
清水　敏治
林田　雅之
村瀬　良一
河野　　充
中村　公一
立川　清隆
岩本　　仁
岩下　義明
高島　　寛
加藤　旨彦
佐藤　正雄
乙藤　浩二
大谷　　淳
大川　五郎
小野沢　浩

松原混声合唱団

松原混声合唱団は昭和28年に東京都世田谷区で誕生した。昭和37年から関屋晋先生を常任指揮者にむかえ着実に実力を向上させてきた。昭和48年には全日本合唱コンクール全国大会で金賞を受賞。昭和53年に小澤征爾・新日本フィルハーモニー交響楽団と協演したのを契機として新らたな活動分野を得た。

現在は単独演奏会、湘南市民コールとの合同演奏会、晋友会合唱団の一員としてのオーケストラとの共演などを中心に活動を行なっている。

ソプラノ
福田　依子
乾　真里子
井内　君枝
田中　弘子
三沢　照子
畑中阿規代
高橋　晶子
内海　孝子
武居　雅子
中沢こずえ
阿久津千代子
小此木淳子
酒井　百合
鈴木美智子
山田　雅子
飯田真紀子
石塚　真理
郡司久美子
松沢　和美
新垣　樹子
安田　展子
西川　純子
柿木　悦子
小林　明子

アルト
笹山美恵子
川崎　博子
間仁田淳子
佐藤　順子
中川　和恵
鈴木由紀子
下村奈保子
広瀬菜々子
埴谷千枝子
井桁　光恵
磯田　茂美
篠原　智子
仁禮　泰子
山地リリ子
鈴木　節子
宮川　朋子
羽島　紀子
岡田　福美
石井まゆみ
安島由美子
赤崎　伸子
持田美年子

テノール
吉沢　暢紘
石島　義弘
井内　　誠
近藤　博喜
立山　英正
慶野　博則
清水　敬一
北村　光正
増田　幸一
中村　正勝
岩月　一弥
今西　英明
信沢　健夫
斉藤　　学
宮本　　明

バス
野村　維男
横山誠一郎
中川　俊広
福井　健志
八反田　弘
若尾　　哲
山地　　保
竹内　正道
室井　健一
佐藤　　明
辻井　　渉
松井正二郎
木村　建哉
平井　秀明

芥川也寸志　交響管弦楽のための音楽

作曲年代　1950年
初　　演　1950年３月　近衛秀麿指揮Ｎ響
出　　版　フィーマ音楽出版（米）
楽器編成　picc. 1, fl. 2, ob. 2, ing-hr. 1, cl. 2, bass-cl. 1, fg. 2, contra-fg. 1, hr. 4, tp. 3, tb. 3, tuba 1, timp., sr-dr., bass-dr., cymb., pf., str.
演奏時間　約12分

芥川先生の作品の特長（もちろん長所という意味で）は独特の抒情性と、ポリフォニックに書かれた部分（本質的には和声又はリズムとしての処理である場合でも）の極めて有機的な音の広がり、又リズムの面白さや恐らく作者自身の感動による曲の盛上り等が挙げられるであろう。先生の作品は概して極度に急進的ではないが、これから作風が保守的であると判断するのは正しくなく、むしろ作者の知的な自制力或いは芸術上の抑制心のためと考えるべきであろう。抑制心に富んだ作家の作品は、もしもその抑制力が解かれた場合には、こんどはかえって情熱的であるのが普通である。

本日演奏される曲は「トリプティク」と同様先生の若い頃（音楽学校を卒業されて間もない頃）の作品でこの曲も知的で端正な曲である。先生の作品中では、或いは、もっと後で書かれた作品（筆者の聴けた範囲では「エローラ交響曲」「雲の糸」等）の方が個性的かつ内容も多様でよりすばらしいように思うが、前の２曲の方が海外で高い知名度があるという点で共通している。特にこの「交響管弦楽のための音楽」はシンフォニー・オブ・ジ・エアーにより100回も演奏されたそうである。

曲はエキゾチックな情緒をもち音色の魅力に富む第一楽章と、活発で舞曲的な感じの第二楽章より成るが、これは古くからある主要な形式「序奏とアレグロ」であると見ることも出来る。

第一楽章　アンダンティーノ

低音部の規則的なリズムに乗ってフルート、オーボエ、クラリネット、トランペット等が東洋風なメロディーを断片的にやりとりする。和音はしばしばホ長調に帰するが、旋律部の複調的或いは全音階的響きや和音の平行的な移行など古典的な解決法はとられていないので、単にホ調と呼ぶのが適当であろう。やがて規則的なリズムがとだえるとイングリッシュホルンにより暗く瞑想的な旋律が奏される。これは各楽器に受けつがれ作曲者独得の修飾により盛上りを見せた後、アッチュレランドにより再び初めの音型に導びかれる。前にも示された断片的メロディーのやりとりの後冒頭の旋律により楽章が結ばれるが、ここでは半音高いヘ長に移されている。

第二楽章　アレグロ

前楽章と対称的に活発でリズミックな楽章。トロンボーンの斉奏によって冒頭に示されるテーマ木管の奏する後半に半音階の下降をもった旋律及びヴァイオリンと木管で示される流れるようなメロディーを主旋律として楽章が構成されている。

終始躍動感にあふれ、「ガィーヌ」や「火の鳥」の一部を思い出させる部分もあるが、全体としてルーマニアの古い舞曲「ホラ」のリズムに近いようである。邦人の作品としては珍らしく変化のあるリズムが主要な役割を果している。

ベートーヴェン　交響曲　第９番　ニ短調　作品125

作曲年代　1817～23年
初　　演　1824年５月７日・ウムラウフ指揮・ウィーン
献　　呈　フリートリッヒ・ウィルヘルム３世
出　　版　1826年　Schott
楽器編成　picc. 1, fl. 2, ob. 2 cl. 2, fg. 2, contra-fg. 1, hr. 4, tp. 2, tb. 3, timp., ,trgl., cymb., bass-dr., str.
ソプラノ，アルト，テノール，バリトン独唱，混声合唱
使用楽譜　Breitkopf & Härtel
演奏時間　約70分

めったに使うべきでない形容詞である“至高の”という表現はベートーヴェンの作品にこそ最も良く当てはまる。９曲の交響曲を始めとする管弦楽曲の総て、ピアノソナタ・弦楽四重奏など室内楽曲の総ては我々の最も貴重な文化的財産であって、いかなる文明の所産とも比べ難い。かつてどれほど自負心の強い作曲家、毒舌にたけた批評家といえどもベートーヴェンの作品の価値に多少とも否定的な言葉を吐いた人はなかった。

シューベルトやブラームス程の大作曲家でさえ、ベートーヴェンを凌駕（りょうが）することより、作品の価値を理解し、自分も出来る限りその境地に近づくことを理想としていただろう。シューベルトの『ベートーヴェンの後にまだ何か作曲できる人が居るだろうか』という言葉は彼の畏怖の気持ちをよく表わしている。

上の二人より遙かに革新的だったワーグナーやリストは、ベートーヴェン音楽の構成美を理想とするブラームス等と激しく対立して新しい音楽を標榜したが、彼らが反ベートーヴェン主義者だったかと云えば、それどころか彼らもブラームスに劣らない程のベートーヴェン崇拝者だった。特にワーグナーはベートーヴェンに関する数多くの著述があり、彼が作曲家を志したのは「エグモント」の音楽に接したのが直接の動機であるとはっきり述べている。

ワーグナーがベートーヴェンに傾倒し始めたのは丁度この巨匠が逝って間もない頃だったが、ワーグナーは生前のベートーヴェンの会えなかった恨みを「ベートーヴェンまいり」という短かい小説を書くことで晴らしている。

この中で作者の化身たる主人公は色々な苦心の末ついにベートーヴェンに面会が許されるのだが、そこで彼が最も感動をもって聴く言葉は『人間の声はオーケストラのどの楽器よりも遙かに美しい高度な音の器官です。この声を楽器と同様に独立して用いない法はないでしょう。……私はいずれ一つの新作をお聴かせるつもりですが、その作品は合唱付きの交響曲です。……結局シラーの美しい讃歌「歓喜によせる」……』という言葉で、これはワーグナーの音楽哲学の一面と第九交響曲への強い共感を良く示している。彼の“第九”への心酔ぶりはこの曲の解釈に関する論文や全曲のピアノ曲への編曲などにも見られ、ワーグナーにとってこの曲は先人の作品の中で彼の音楽の理想を実現した作品であったろう。

ベートーヴェンの無上の創造的本能は９曲の交響曲に特に良く示されている。彼の作風は常にそうであるように、９曲中の１曲１曲がそれぞれ他の８曲が有さない独自の特徴を備えている。第九交響曲が合唱を伴っていることは中でも最大の特徴だが、この作品は構想が遠大であることでも異例であった。

ベートーヴェンはこの曲の完成より30余年前、生地のボンに居た23才のころ既にシラーの「歓喜に寄す」を歌詞とした作曲を意図していたと思われ、その後何度か作曲が試みられながら実現しなかった。又、第一楽章及び第二楽章の断片も完成の10数年前のスケッチ・ノートより発見されている。“合唱交響曲”に対してベートーヴェンは彼のライフワークとして自分の作品中でも別格の地位を与えていたものと思われる。

ベートーヴェンの作曲の筆は古典音楽の大家達と比べれば速い方ではなかったが、一たび霊感を得れば超人的な没頭によって一気に作品を書上げてしまうことが多かった。その彼が“永遠の恋人”に対する如く永い間作品を暖めていたことは我々の感慨を誘うだろう。

内容的な面から第九交響曲を見た場合ゆったりとした構成が特徴的である。特に第３楽章までは他の交響曲より長い分だけ多くの要素を持ち込むというのではなく、主題の発展に重きが置かれている。

第一・第二楽章は主題の断片が示された後に主題が奏されるという共通の始まりをもっている。これらの断片は単に序の働きをするだけでなく楽章の中で主題そのものの如き重要な役割を果す。

第一楽章は他の交響曲の第一楽章に見られた快活な気分又は勢い込んだ調子をもたずに緩慢で壮重な気分に終始しており、これは大曲の序章にふさわしいものである。

第二楽章はこの楽章としては異例のスケルッツォだが、本来の“気分転換”の性格を遙かに通り越した高度な内容によっている。フーガを含んだ緊迫した部分と対比的に滑稽味のあるトリオからなっていて、前の部分では主題の断片のリズムとオーケストラの全休止が非常に重要である。ちなみに“新世界交響曲”のスケルツォもよく似た形で書かれているが、この楽章と比べるとその境地は比較にならないほど大きい。

第三楽章は高雅な２つの主旋律をもっておりこれに対してヴァイオリンが細緻な変奏を行なう。各声部の混然一体となった美しさは将に天国的と言うべきで、中間のホルンの音階的なソロだけが幾分世俗的な音を響かせる。

第四楽章はもちろん全曲の主楽章で、構成も急に複雑となる。オーケストラの前奏部に於ける低弦のレシタティーヴォや前楽章の回顧、その後の“歓喜のテーマ”の延々とした演奏は、交響曲の楽章としての整った構成は既に無視されている事を示している。

やがてバリトンの独唱が“歓喜の歌”の合唱を呼びかけてからはあくまでも人声が主役となり、シラーの長詩からとられた歓喜の気持が独唱により、重唱により、大合唱により繰り返し謳われる。そして合唱が最後に最も盛上った後、オーケストラが高潮した後奏を短かく行なって曲を閉じる。

この壮大な終楽章（ひいては第九交響曲）の最も素晴しい点を挙げるなら、それはこの曲が神の讃歌ではなく何よりも人間の讃歌であることだろう。そしてこの点こそが本当にベートーヴェンらしい点である。ここに謳われている歌詞は総じて格調高いが、

特に強い響きをもっているのは“全ての人はみな友ぞ”或いは“人みな”（Alle Menschen）という言葉そのものだろう。

ベートーヴェンほど人間愛に燃えて一生を終った人は決して見当らない。彼自身の表現によると、彼は“音楽の才能の持ち主”ではなく“頭脳の持ち主”であり、彼の最も優れている点は“優れた作曲を多く行なったこと”ではなく“全ての人々の幸福のことばかりを考えていたこと“であった。

ベートーヴェンの如き大芸術家にとって、彼の芸術から比べたら平凡な人達が、彼にとって全くとるに足らない存在であると考える人がいたら、その考えは誤っている。天才はその感覚的世界が他人と異っているだけでに孤独であり、それ故、また彼らほど周囲の理解と友情に飢えている人々もないだろう。

ベートーヴェンは女性への愛がついに満たされず、肉親達からこうむった苦痛も小さくはなかったが、“全ての人々への愛”だけは最後まで全うした。本当の話、我々の知っている最大の音楽家が傲慢な天才でなく崇高な理想の持ち主であったことは我々の大きな喜びでなくて何だろう。

シラーによる歓喜の歌

O Freunde, nicht diese Töne,
sondern lasst uns angenehmere anstimmen, und freudenvollere.
おお友よ，これらの音ではなくて，
もっと快いものに声を合わせよう，もっと喜ばしいものに。

Freude, Freude,
Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium !
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligthum !
歓喜よ，歓喜よ，
歓喜よ，美しい神の閃光，
楽園からの娘よ！
われらの熱情にあふれて，
天国に，汝の聖殿に踏み入ろう！

Deine Zauber binden wieder,
was die Mode streng getheilt,
alle Menschen werden Brüder,
wo dein sanfter Flügel weilt,
汝の魔力は世の態により，
厳しく引きはなされたものを再び結びつける。
汝のやさしい翼のとどまるところ，
すべての人々は兄弟となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
eines Freundes Freund zu sein,
wer ein holdes Weib errungen,
mishe seinen Jubel ein!
大きな贈物をうけたものは，
友のなかの真の友たり，
いとしき妻をえた者は，
歓呼の声を和せよ！

Ja, wer auch nur eine Seele
sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
weinend sich aus diesem Bund.
そうだ，地上にただ一つの魂を
自分のものとよんでいる者でも！
そしてこれを今まで知ったことのない者は，
泣き悲しみつつこの群から去れ。

Freude trinken alle Wesen
an den Brüsten der Natur;
alle Guten, alle Bösen
folgen ihrer Rosenspur.
歓喜をすべてのものは
自然の乳房からのみ，
すべての良きもの，すべての悪きものは，
そのばら吹く路をゆく。

Küsse gab sie uns und Reben,
einen Freund, geprüft im Tob ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
und der Cherub steht vor Gott!
それは，われらに接吻と酒をあたえ，
死の試練をへた友をあたえる，
虫けらにも快楽はあたえられ，
そして天の使いは神の前に立つ！

Froh, wie seine Sonnen fliegen,
durch des Himmels prächt'gen Plan,
laufet, Bruder, eure Bahn,
freudig, wie ein Held zum siegen.
楽しく，神の多くの太陽が，
天空の壮麗な面をとぶごとく，
走れ，兄弟たちよ，汝らの道を，
喜ばしく，英雄が勝利に赴くように。

Seid umschlungen, Millionen!
Diesen Kuss der ganzen Welt!
Brüder! über'm Sternenzelt
muss ein liber Vater wohnen.
相抱かれよ，何百万の人々よ！
この接吻を全世界にあたえよ！
兄弟たちよ！　星の天幕の上には
愛する父がおわす。

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such'ihn über'm Sternenzelt!
über Sternen muss er wohnen.
地にひれ伏すか，何百万の人々よ？
造物主を認めるか，世界よ？
星の天幕の上に彼を崇めよ！
星の彼方に彼はおわす。

曲目解説：菱沼佳史（前、新響vla.）
第53及び第58回演奏会プログラムより再録。

世界を結ぶ花のネットワーク
SINCE 1892
JAPAN'S BEST QUALITY

花はゴトウ

六本木に生れ育って90年、日本国内はもとより世界の国々（共産圏を除く）を網羅する花の通信配達組織はますます充実。

国内チェーン店にはファクシミリ(電話電送装置)も設置されました。



株式会社 ゴトウ花店

本　店：港区六本木交叉点　☎(401) 8500・8510
　　☎(408) 8211～4代
阪急店：スキヤ橋阪急1階入口　☎(571) 1098
松屋店：銀座松屋1階入口　☎(567) 8789
東急店：銀座東急ホテル地下アーケード　☎(541) 3650
千疋屋店：日本橋本店1階入口　☎(241) 0877

美を創造しつづける―手造りの逸品

SASAKI CRYSTAL



ザ コーニング ミューゼアム オブ グラス主催
79 New Glass 展選定作品 デザイン竹内伝治

佐々木硝子株式会社
〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2-2-6 ☎(03)663-1211

色は太陽のめぐみだ。



みずみずしいフルーツも、美しい花も、そして輝く健康的な肌も、
みんな、みんな、太陽のめぐみなんだ。そうした自然な映像を鮮やかに再現したい。
スーパーアシキュラックスHG
超微粒子のスーパーアシキュラックス磁性体が、
見たまま、感じたままの映像を、色調豊かにとらえる。
世界で初めてビデオテープを開発した"スコッチ"。
プロ用ビデオテープで培われた技術が、色に、画質に現われる。

スーパーアシキュラックスHG

Scotch® VIDEO CASSETTE

●VHS用HGタイプ

T-120HG(120分)￥4,400/T-80HG(80分)￥3,800/T-60HG(60分)￥3,300/T-40HG(40分)￥3,000/T-30HG(30分)￥2,800/T-20HG(20分)￥2,600

●ベータ用HGタイプ

L-500HG(120分)￥3,400/L-370HG(90分)￥3,000/L-330HG(80分)￥2,900/L-250HG(60分)￥2,600/L-165HG(40分)￥2,400/L-125HG(30分)￥2,300

●録画・再生時間の表示:VHS用は標準モード、ベータ用はβIIモードです。●VHS用はVHSマークのついたデッキで、ベータ用はβマークのついたデッキでご使用ください。
●あなたがビデオテープで、テレビ放送などから録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用することはできません。

住友スリーエム株式会社 3M
磁気製品事業部
第1販売部
本社:〒158 東京都世田谷区玉川台2-33-1 TEL(03)709-8495(ダイヤルイン)

3M

TOKYO
STRING
INSTRUMENTS

楽器も演奏の一部です。

弦楽器のことなら何でもご相談ください。
あなたの音を創り出すために、
親身になってお手伝いいたします。

販売・修理・調整

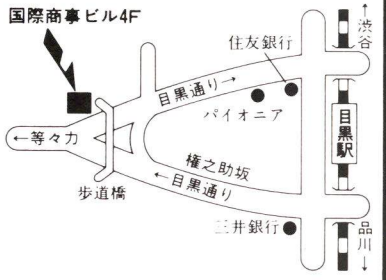
東京弦楽株式会社

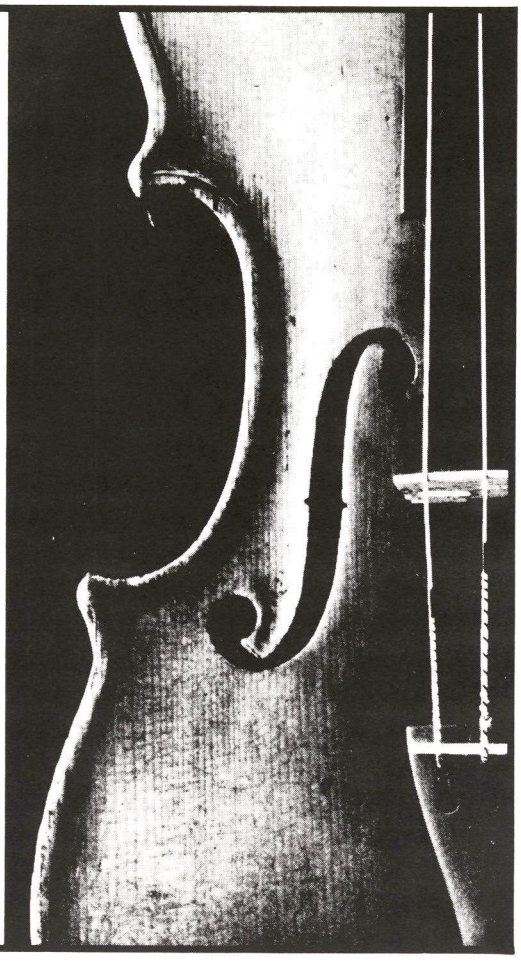
〒153 東京都目黒区目黒1-5-16 国際商事ビル4F
TEL.03-494-1441
名古屋店　名古屋市中区新栄2-1-9 雲竜ビル東館501号
TEL.052-261-4663

東京スタッフ
風間　裕一
島村　圭
山崎　憲
遠山　裕睿
中村　泰
松田　敏開子
伊東美奈

名古屋スタッフ
上村　宰
原田　史哲
端地さおり

●営業時間……10:00～20:00
●修理受付時間……10:00～18:00

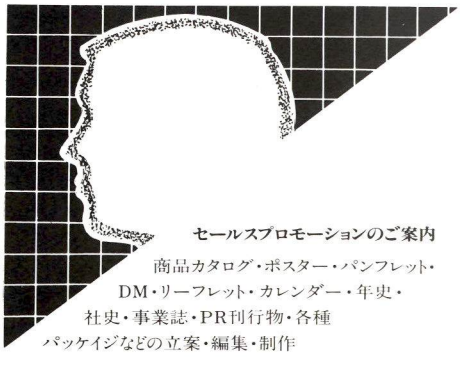




永遠のテーマです

誠意と誠実。

イメージを赤、青、黄、黒のたった4つの要素で一切の物事を紙の上にもりつけ、かたちとして美しく表現するのが印刷です。
しかし、そのもりつけかたによっては、意図したかたちやイメージがさらに効果を上げたり、また、イメージをそこねてしまったりすることもあります。
私たちは、これからもみなさまから与えられたイメージを的確にとらえ、より忠実に〝創り〟さらに実効的にもりつけ、かたちにするため誠実な努力と技術を惜しみません。
それが私たちトープロの仕事であり、永遠のテーマです。



セールスプロモーションのご案内
商品カタログ・ポスター・パンフレット・
DM・リーフレット・カレンダー・年史・
社史・事業誌・PR刊行物・各種
パッケイジなどの立案・編集・制作

トープロ
Topro

〒104 東京都中央区入船3-10-9☎(03)553-1621㈹

音楽著作権をまもる
JASRAC



たったひとつのオタマジャクシも大切にしていきたい。

社団法人 日本音楽著作権協会（音権協）
理事長　芥川　也寸志

クラシック音楽に輝かしい一頁を加える、
ヨーロッパの伝統――――。

フォニック・レコード wphonic

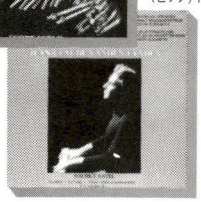
ヨーロッパ直輸入盤 30cmLP
日本語解説書付　各¥2,800



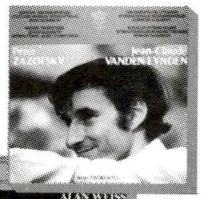
現代ベルギー、ヨーロッパを代表する
作曲家ロッサムの佳作集。
フレデリック・ヴァン・ロッサム
Réquisitoire op.28
ホルン協奏曲 op.39／ピアノ協奏曲 op.30
(ホルン)フランシス・オルバル
(ピアノ)フンデリック・ヴァン・ロッサム
(指揮)ブライアン・プリストマン
ベルギー国立管弦楽団
FONC-8010(エリザベート・レーベル)



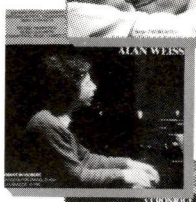
ラグタイム・ピアノの楽しさを1枚に収めたS.ジョップリン名作集
スコット・ジョップリン作品集
イージー・ウイナー／ウィーピング・ウイロー／ソラース／フィグ・リーフ・ラグ／
ユーフォニック・サウンド／サンフラワー・スロー・ラグ／ウォール街のラグ／
エンター・ティナー／シュガー・ケーン／メープル・リーフ・ラグ, 他全16曲
(ピアノ)ドミニック・コルニル　FONC-8011(エリザベート・レーベル)



ベルギーの中堅ピアニスト、
ヴァンデン・アインデンの実力を世に問う意欲作。
ラヴェル：
ソナチネ, ラ・ヴァルス, 高雅で感傷的なワルツ
ボロディン風に, シャブリエ風に
(ピアノ)ジャン・クロード・ヴァンデン・アインデン
FONC-8012(エリザベート・レーベル)



初々しい叙情と感性、
アメリカの俊英ザゾフスキーの名演奏。
プロコフィエフ：
ヴァイオリン・ソナタ第1番, 第2番
(ヴァイオリン)ピーター・ザゾフスキー
(ピアノ)ジャン・クロード・ヴァンデン・アインデン
FONC-8007(エリザベート・レーベル)



シューベルトの音楽の光と影を、ピアニスティックに表現したアラン・ワイスの好演。
シューベルト：
ピアノ・ソナタ ニ長調 D.850／12のドイツ舞曲 D.790
(ピアノ)アラン・ワイス
FONC-8008(エリザベート・レーベル)



新進気鋭の女流ヴァイオリニストによるフランス音楽のエスプリ。
ドビュッシー：
ヴァイオリン・ソナタ
ラヴェル：
ヴァイオリン・ソナタ, ツィガーヌ
(ヴァイオリン)ヴェロニック・ヴォーガルツ
(ピアノ)エウゲニー・ドゥ・コンク
FONC-8009(エリザベート・レーベル)

全国有名レコード店にて好評発売中です！

ブラームス：
ヴァイオリン・ソナタ第1、3番
(ヴァイオリン)堀米ゆず子
(ピアノ)ジャン・クロード・ヴァンデン・アインデン
FONC-8001(エリザベート・レーベル)

ブラームス：
ヴァイオリン・ソナタ第2番
R・シュトラウス：
ヴァイオリン・ソナタ
(ヴァイオリン)ベルル・セフスキー
(ピアノ)ジャン・クロード・ヴァンデン・アインデン
FONC-8002(エリザベート・レーベル)

ボッテジーニ：
ヴァイオリンとコントラバスのための
協奏的大二重奏曲
ボッケリーニ：
マドリードの夜の音楽
(ヴァイオリン&指揮)ルドルフ・ヴェルテン
イ・フィアミンギ
FONC-8003(エリザベート・レーベル)

ロッシーニ：
弦楽のための ソナタ第1番、他
(ヴァイオリン&指揮)ルドルフ・ヴェルテン
イ・フィアミンギ
FONC-8003(エリザベート・レーベル)

プロコフィエフ：
ピーターと狼 Op.67
ピアノのための10の小品 Op.12
(ピアノ)ドミニック・コルニル
FONC-8004(エリザベート・レーベル)

バルトーク：
ソナチネ／ルーマニア民俗舞曲
15のハンガリー農民歌／ミクロコスモスより(VIの148-153)／舞踊組曲
(ピアノ)アラン・ワイス
FONC-8005(エリザベート・レーベル)

グルック：精霊の踊り／グラナドス：
アンダルーサ／ヴァーチェック：常動
曲／サラサーテ：カルメン幻想曲／
ブラームス：スケルツォ／ストラビン
スキー：ロシアの歌／クライスラー：
ラ・ジョーナ／ラヴェル：カディッシュ／他
(ヴァイオリン)清水高師
(ピアノ)セオ・イエトキン
FONC-8006(エリザベート・レーベル)

フォニック・レーベルのカタログを用意しました。下記にお申し込み下さい(無料)。

株式会社フォンテック　FONTEC RECORDS
〒167 東京都杉並区荻窪5-16-15
☎(03)393-0183





快適な旅の目じるしです。三越海外店。

ヴィヴィッドな海外旅行がいっそうエンジョイできます。憧れのアーバン・シティー9ヵ所で三越の海外店がお待ちしています。たとえば世界の一流ブランドが日本語でラクラクショッピング。旅先でのちょっとしたトラブルのご相談にもどうぞ。快適な旅で心にあざやかな思い出を。三越がお手伝いいたします。

パリ三越
オペラ座前／TEL.742-6003
●クリスチャンディオール、セリーヌ、ランバンなど。800フラン(約27,000円)以上お買上げの場合15%免税。美術品のご相談も承ります。

ローマ三越
レパブリカ広場近く／TEL.475-7851～4
●ハンドバッグ、靴からイタリアニューファッションまで。三越和風レストラン"日本橋"もお気軽にご利用ください。

ロンドン三越
ピカデリーサーカスの前／TEL.839-6714
●ヨーロッパ有名ブランドから絵画、アンティークまで。お買上げの品々の免税取扱いを承ります。(50ポンド＝約18,000円以上)

デュッセルドルフ三越
イマーマン通り／TEL.353971
●ヘンケル、コンテス、モンブランなど、お買上げ品の免税取扱いを承ります。眼鏡のご調整や日本書籍のお求め、和風喫茶も開設しております。

フランクフルト三越
カイザー通り13〈ゲーテハウスから徒歩1分〉
TEL.293086～7 ●コンテス、カールゼーガーなどドイツの一流品やヨーロッパの特選品まで。免税取扱いも承ります。(200マルク＝約20,000円以上)

ニューヨーク三越
パークアベニューの角／TEL.935-6444(レストラン)
●有田焼、漆器など日本伝統工芸品を展示即売。レストラン"三越"で本格的懐石料理をご賞味ください。

ディズニーワールド三越
フロリダ オーランド エプコットセンター内／
TEL.(305)295-6811(事務所)●ショップでは陶磁器、きものなど伝統工芸品など、レストランでは鉄板焼、てんぷらなど代表的日本料理がお楽しみいただけます。

ハワイ三越
カラカウア通り／TEL.922-2355
●ティファニー、ロエベ、ダンヒルをはじめ、世界の一流ファッションブティックの逸品からカリフォルニアのファッション、ハワイのお土産まで。

香港三越
ヘネシー通り500ヘネシーセンタービル1F～B3／
TEL.5-765-222 ●世界の一流ファッションから食料品までお求めいただけます。

海外でのお買物は「三越国際クレジットカード」
世界9ヵ所の三越海外支店で、国内同様にご利用いただける「三越クレジットカード」。お金の換算やおつりなど、キャッシュにつきまとう不安を解消すると同時に、お支払いは帰国1～2ヵ月後と、お買物もお気軽です。
お申込み・お問合せは、お近くの三越本・支店国際クレジット係へ



「日曜、祭日も営業しているのでとても便利!」と、ご好評を戴いている"三越トラベルセンター"。いつも「ゆきとどいたサービス、オリジナリティ溢れる企画内容」をモットーに、海外・国内に様々なコースをご用意致しております。毎回、世界各地から寄せられるきめ細かな最新情報をもとに、その土地の最も美しい季節に合わせて企画される海外特選旅行をはじめ、海外・国内旅行のコンサルティング、航空券・ホテルのご予約まで、ご旅行に関する全てに、お気軽にご利用ください。

日本橋 三越トラベルセンター
日本橋三越本店4階 TEL.(03)241-4501

世界のデパート
MITSUKOSHI
TEL (03)241-3311

RICOH



撮るつきゃないつ。

山下久美子

1 フィルム装てんがオート。
誰にでも簡単・確実・スピーディ。

2 巻上げがオート。
シャッターを押すと、すかさず自動巻上げ。

3 ピントがオート。
狙って押すだけで、いつもピントぴったり。

4 露出がオート。
屋外でも室内でも、シャッター押せば適正露出。

5 ストロボがオート。
夜も押すだけ。高性能ストロボを内蔵。

6 巻戻しもオート。
撮り終ったフィルムは、巻戻しスイッチで。

オートフォーカスカメラなら、リコーです。
AUTO AF FOCUS
リコー新開発のLSI使用



快感スーパーオート 新発売

マイポート

¥42,800(ケース別)

リコー 光学事業部 〒104 東京都中央区銀座6-14-6 ☎03(543)4191

